

令和3年度「ともに学び・育つ」学校づくり支援事業

自立活動ハンドブック(中学校版)

～「ともに学び、ともに育つ」教育の継承とさらなる発展のために～

大阪府教育庁 教育振興室 支援教育課

はじめに

平成 19 年の学校教育法改正によって「特別支援教育」が法的に位置づけられてから、15 年が経とうとしています。

この間、国では「共生社会」の実現に向けたさまざまな法整備が進められ、今年度も 9 月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」（以下、「医療的ケア児等支援法」という）が施行されたところです。「医療的ケア児等支援法」ではその理念として、医療的ケア児及びその家族の生活を社会全体で支えること、医療的ケア児が医療的ケア児でない子どもと共に教育を受けられるよう最大限に配慮することが示され、学校の設置者の役割として、医療的ケア児が保護者の付添いがなくても適切に支援を受けることができるよう、看護師の配置等の必要な措置を講ずること等が明記されました。

ご承知のとおり、大阪府においては、これまでから障がいの有無にかかわらずすべての子どもたちが地域社会の中でかかわりながらともに生きていくことをめざす「ともに学び、ともに育つ」教育を推進しており、「医療的ケア児等支援法」以前から多くの医療的ケア児が地域の学校で学んでいます。「医療的ケア児等支援法」の施行により、大阪の取組みによろしく国の法制度が追いついた形ですが、複雑化・多様化する障がいのある子どもの教育的ニーズに対応し、すべての子どもの学びと育ちを支えるためにも、これまで培ってきた「ともに学び、ともに育つ」教育の継承と発展が求められます。

昨年度（令和 2 年度）実施した「ともに学び・育つ」学校づくり支援事業（以下、「本事業」という）における実践や、そこで得られた成果等を取りまとめた「自立活動ハンドブック（小学校版）」（令和 3 年 3 月発行、以下「小学校版」という）では、誰ひとり取りこぼすことのない教育をめざすために「個に応じた指導・支援」と「学校全体での組織的な取組み」を両輪とし、これらの一層の充実を図ることで「ともに学び、ともに育つ」学校づくりを進めるよう提言しました。本事業は令和 3 年度、舞台を中学校に移して実施しましたが、代表校である府内 5 中学校における実践をとおして、改めて「個に応じた指導・支援」と「学校全体での組織的な取組み」の重要性を認識するとともに、小学校と中学校の課題の違いや共通点、それぞれの強み等を整理することができました。

本冊子は、代表校をはじめとする府内中学校及び市町村教育委員会のご協力のもと、障がい種別ごとの「自立活動実践事例」や「自立活動学習指導案」を掲載するとともに、令和 3 年度の本事業における成果等を取りまとめたものです。義務教育 9 年間を見通した切れめのない支援を行うためにも、すでに配付しております「小学校版」とあわせて活用していただくことを想定しています。障がいのある子どもをはじめとするすべての子どもの自己実現と社会参加に向けた取組みのより一層の充実、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる発展のために、本事業で作成した 2 冊の「ハンドブック」を活用いただければ幸いです。

令和 4 年 3 月

目 次

I	就学相談・教育相談の充実について	3
II	個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用について	6
III	自立活動の個別の指導計画について	9
IV	各教科等を合わせた指導について	13
V	障がい種別等に応じた自立活動の実際	18
	(1) 指導案作成等のポイント	18
	(2) 弱視支援学級	20
	(3) 難聴支援学級	24
	(4) 知的障がい支援学級	28
	(5) 肢体不自由支援学級	36
	(6) 病弱・身体虚弱支援学級	40
	(7) 自閉症・情緒障がい支援学級	46
	(8) 通級による指導	52
VI	自立活動の指導と集団づくり	57
VII	自立活動の指導と卒業後の自立	61
VIII	円滑かつ適切な引継ぎについて	66
IX	まとめ ～支援教育充実推進会議より～	71
X	資料編	73

I 就学相談・教育相談の充実について

障がいのある子どもの就学先（学びの場）の決定において、子ども一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握するとともに、子どもの自立や社会参加をみすえ、その時点でのその子どもに最も必要な教育を提供する観点が必要です。

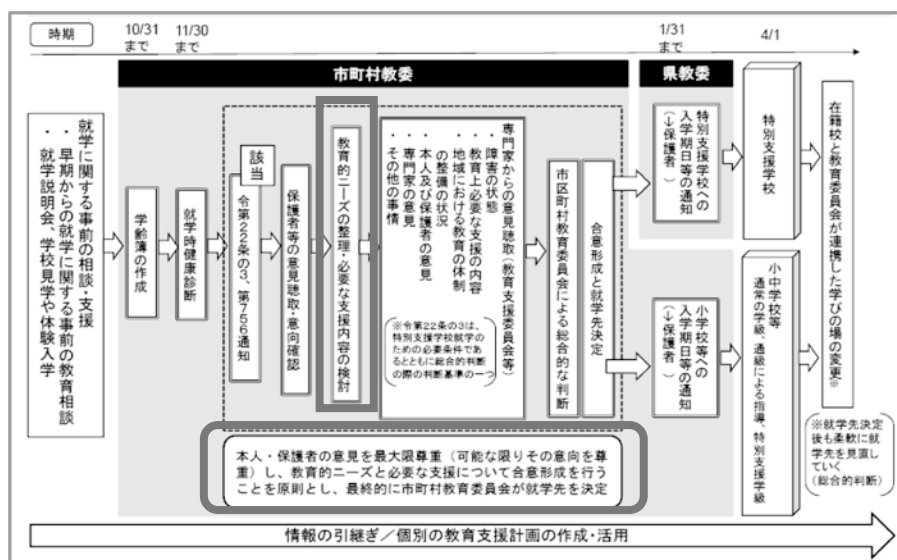
就学先決定のプロセスについて

就学先決定の仕組みについては、「自立活動ハンドブック（小学校版）P.4」でふれています。

就学先決定までのプロセスは、下の図のとおりですが、本人・保護者に対し、早い時期から丁寧な情報提供を行うとともに、本人・保護者の意向を可能な限り尊重すること、また、学びの場は固定されたものではなく、子どもの状況等に応じて柔軟に対応していくものであること等について留意する必要があります。

なお、就学先決定は市町村教育委員会の役割ではありますが、そのプロセスについては、本人・保護者と直接やり取りをする教職員も把握しておくことが重要です。

<就学先決定の仕組み>



中学校における事前の相談・支援の実施にあたっての留意点

中学校入学を控えている保護者にとって、中学校卒業後の進路が最大の関心事になってくるのではないのでしょうか。

後述のように、支援学級に在籍している生徒の多くが高等学校へ進学しています。高等学校の入試制度や評価・評定のあり方、各教科等における学習内容等について、入学前から、本人・保護者に対し、学校は丁寧に説明する必要があります。

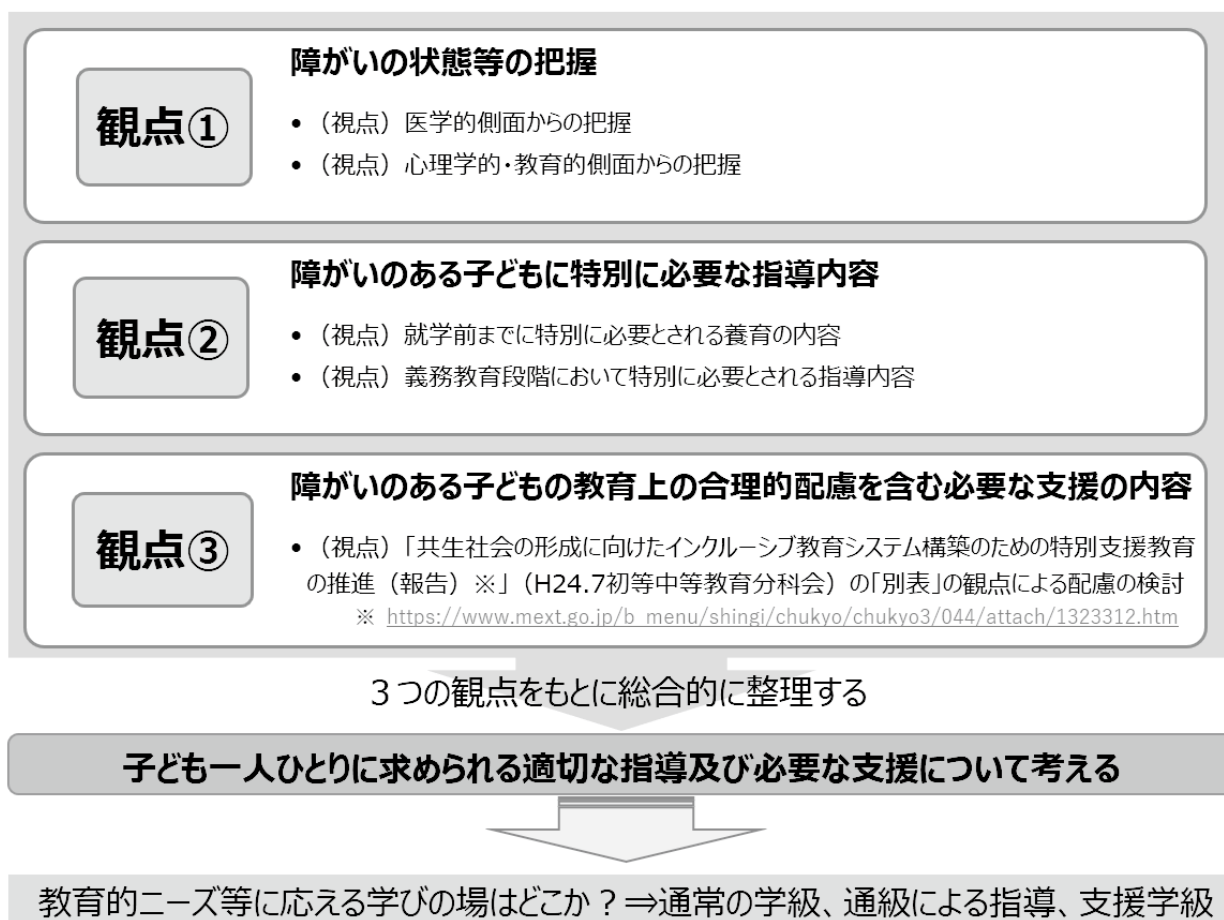
また、中学校は教科担任制になりますので、小学校の指導体制から大きく変化します。指導体制が変わっても、小学校からの学びの連続性を確保しつつ、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を充実させていくこととなります。中学校進学に向けた本人・保護者の安心のためにも、各教科等における指導・支援内容等、適切な情報提供が必要なのは言うまでもありません。


教育的ニーズの整理と必要な支援の検討について

子どもの障がいの状況等は、一人ひとり異なるため、必然的に一人ひとりに必要な支援の内容も異なってきます。そのため、子ども一人ひとりの教育的ニーズと必要な支援の内容を検討し、本人・保護者等との合意形成を進めながら学びの場を検討する必要があります。

令和3年6月、文部科学省より示された「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズをふまえた学びの充実に向けて～」において、教育的ニーズを整理するためには、3つの観点をふまえることが大切であると述べられています。

また、必要な支援の内容を検討する段階では、子ども一人ひとりの教育的ニーズに対し、それぞれに期待される教育効果、将来の支援の見通し等を勘案しながら検討し、整理することが必要です。





コラム <「教育的ニーズ」について>

今年6月、文部科学省が作成した「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズをふまえた学びの充実に向けて～」が発表されました。子ども一人一人の教育的ニーズに最も的確に答える指導が求められています。今一度「教育的ニーズ」について考えてみたいと思いました。

「教育的」の「的」の意味は辞書では、「…に関わる」「…上望ましい」などがあります。すると、「教育的」とは、「教育に関わる」「教育上望ましい」となるのでしょうか。そうであれば、誰にとっての「教育的」なのかが気になります。そして「ニーズ (needs)」の意味には、「必要」「要求」「需要」などがあります。すると「教育的ニーズ」は、「教育に関わっての必要」と考えるのでしょうか。今度は誰の、何の必要なのかが気になります。捉え方の多くは、「教育に関して『この子どもに必要』と大人（教育支援者）が考える指導支援の内容」という意味合いが大きいように思えます。

随分前になりますが、中学2年生のAさんに、「あなたは、どんなことができるようになりたいですか？」とたずねたことがあります。Aさんは「勉強がわかるようになりたい。一次関数のグラフがかけるようになりたい。」と話してくれました。また、聴覚障がいのある中学3年生のBさんは、「担任の先生の冗談を、みんなと同じタイミングで笑えるようになりたい。みんなが笑っているのに気づいて、慌てて自分も笑うのは嫌だから。」と、話してくれました。いずれも、担任の先生からうかがった「子どもの教育的ニーズ」とは違っていました。Aさんについては「自分の持ち物管理ができ、身だしなみが整えられるようになること」、Bさんについては「自分の思いを相手に伝えられるようになること」でした。いずれも、子どもに身につけてほしい力ではあるけれど、子ども発信の「必要」とは少し距離があるように思いました。しかし、例えばAさんへの一次関数のグラフをかく指導の際、定規やグラフ用紙などの学習教材の準備・使い方・片付けが自分でできるようになることを学習目標の1つに組み込むことでその距離は縮まると思いました。

この時、「教育的ニーズ」は「学習主体者である子どもが必要としている学習内容・方法」と考えると良いのではないかと考えました。子ども発信の「必要」と関連づけた指導の工夫があってこそ「教育的ニーズ」が学びの充実につながるのではないかと思います。ニーズの主体は誰か、その内容は子どもの、できるようになりたい！思いが反映されているか、その方法は子どもの意思で選択したり変更したりができるものとなっているか、などを子どもと相談しつつ学習を進めていくことが大切だと思います。

梅花女子大学 閑喜 美史 教授

Ⅱ 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用について

個別の教育支援計画とは

平成 15 年度から実施された障害者基本計画においては、教育、医療、福祉、労働等が連携・協力を図り、障害のある生徒の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における生徒の望ましい成長を促すため、個別の支援計画を作成することが示されました。この個別の支援計画のうち、幼児児童生徒に対して、教育機関が中心となって作成するものを「個別の教育支援計画」といいます。

(中学校学習指導要領解説総則編より)

個別の指導計画とは

個別の指導計画は、個々の生徒の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものです。個別の指導計画は、教育課程を具体化し、障害のある生徒など一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものです。

(中学校学習指導要領解説総則編より)

	個別の教育支援計画	個別の指導計画
どんなもの？	本人・保護者の願い、障がいによる困難な状況、支援の内容、生育歴、相談歴など、生徒に関する事項について、本人・保護者を含めた関係機関（教育・福祉・医療・労働など）で情報共有するためのツール。	生徒の実態に応じて適切な指導を行えるよう、一人ひとりの指導目標、指導内容及び指導方法を明確にしたもの。
対象は？	支援学級に在籍する生徒や通級による指導を受ける生徒→作成が義務付けられている。 通常の学級に在籍している障がいのある生徒→作成が努力義務になっている。	
どのように作成する？	これまでの生育過程や学習内容等をふまえ、保護者や関係機関を含んだ複数の視点から生徒を把握したうえ、将来の自立をみすえた長期的な視点をもって作成する。	一人ひとりの状況に応じた指導を行うために、課題の整理、指導目標の設定、指導内容の明確化、指導方法の検討により、きめ細やかな指導をするとともに指導状況の把握ができるよう作成する。
どんな効果があるの？	保護者や関係機関と多面的、多角的に生徒の情報を引き継いだり、共有したりすることで、情報が蓄積し、将来をみすえた支援についてよりよく考えることができる。	指導の経過が把握でき、生徒に対する計画的、継続的な指導ができる。

計画の見直し

計画作成後も実施状況を適宜評価し、改善を図っていくことが不可欠です。

計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Action)のPDCAサイクルによる見直しを行いながら、適切な指導や必要な支援を進めていくことが大切です。

- 実態把握
- 課題の共有
- 目標設定
- 指導内容の決定

- 次の学期における指導
目標や指導内容の検討



- 指導・支援の実行
- 指導・支援の記録

- 目標達成の確認
- 通常の学級における生徒
の変容や汎化

引継ぎ

個別の教育支援計画はその幼児児童生徒がどのような支援を受けてきたのかが記されている支援の記録です。切れめのない支援を行うためにも、確実な引継ぎが行われるように留意しましょう。個別の指導計画については、指導に当たる教員間や、進級の際にもスムーズに引継ぎを行える校内体制を構築しましょう。

【校内での引継ぎ】



校内での引継ぎについては、担任や教科担当者が進級時に次の担当者へ確実に引き継ぐことができる校内体制を構築します。

【進路先への引継ぎ】



進路先への引継ぎについては、個人情報保護の観点に留意しつつ、引き継ぐ内容を生徒・保護者と共有し、次の進路先への引継ぎを確実にを行う体制を整える必要があります。

引継ぎのポイント

個別の教育支援計画の引継ぎに際しては、目標に対する達成状況や今後の課題を引き継ぐことで継続した支援が可能となります。

進学や就職をすることで、活動場所や関わる人、活動内容などが大きく変化し、障がいのある

生徒にとって、新しい環境への適応の困難さや不安が想定されます。生徒や保護者の不安に寄り添うとともに、新しい環境へスムーズに移行するためにも、事前に保護者の同意を得たうえで、本人・保護者のニーズや特性等への必要な配慮や支援を進路先に伝え、引継ぎを行う必要があります。



コラム <学習活動における「指導と評価のPDCAサイクル」を進めるために>

継続的な業務改善を図る方法であるPDCAサイクルは、様々な分野で広く用いられ、学校においても広く活用されています。それでは、特別支援教育の中でも、自立活動の指導におけるPDCAサイクルはどのようなもののでしょうか？まず、対象の子どもの実態把握から始まり、学習指導要領の目標に照らした個別の目標設定や指導内容を個別の指導計画に記載する「P（計画）」がスタートになりますが、現場ではここに多大な労力がかかります。特に特別支援教育に携わってまもない教員にとっては、どう考えたらよいか、試行錯誤の連続でしょう。

この“試行錯誤”を構造化することに、PDCAサイクルの本質があります。「P（計画）」は机の上だけで考えるものではなく、実際の子どもと接する中で考えていくものです。また、計画を立てた後も、実際に取り組む中で修正することが大切になります。学校単位でPDCAサイクルのスケジュールが組まれていることもあると思いますが、もっとも大切なことは、最小単位である“毎日のPDCAサイクル”。想定以上に学習が困難なこともありますし、逆に想定より早く課題を修得することもあります。小さな単位のPDCAサイクルを繰り返し、もっとも適切な学習活動を再設定しながら、学校単位もしくは年間単位のPDCAサイクルにつなげることが大切になります。

そうすると“毎日のPDCAサイクル”に必須となるポイントは、“子どもの変化や成長への気づき”です。学習活動の成果物だけではなく、“取組みの手順は？その時の表情や姿勢は？終わった後の感想は？”など、気づきのきっかけはたくさんあります。しかし、気づくポイントには個人差がありますので、教員間の情報共有の中で、気づきの視点を豊かにする取組みが、PDCAサイクルの充実を図る上でとても大切になると思います。

四天王寺大学 長澤 洋信 講師



Ⅲ 自立活動の個別の指導計画について

自立活動の目標

自立活動の目標は特別支援学校学習指導要領で次のように示されています

個々の児童又は生徒が自立をめざし、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。(特別支援学校学習指導要領第7章第1より抜粋)

自立活動の内容

自立活動は特別支援学校の教育課程において特別に設けられた指導領域です。その内容は、人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素で構成されており、それら要素の代表的な27項目が下の表のように、6つの区分に分類・整理されています。

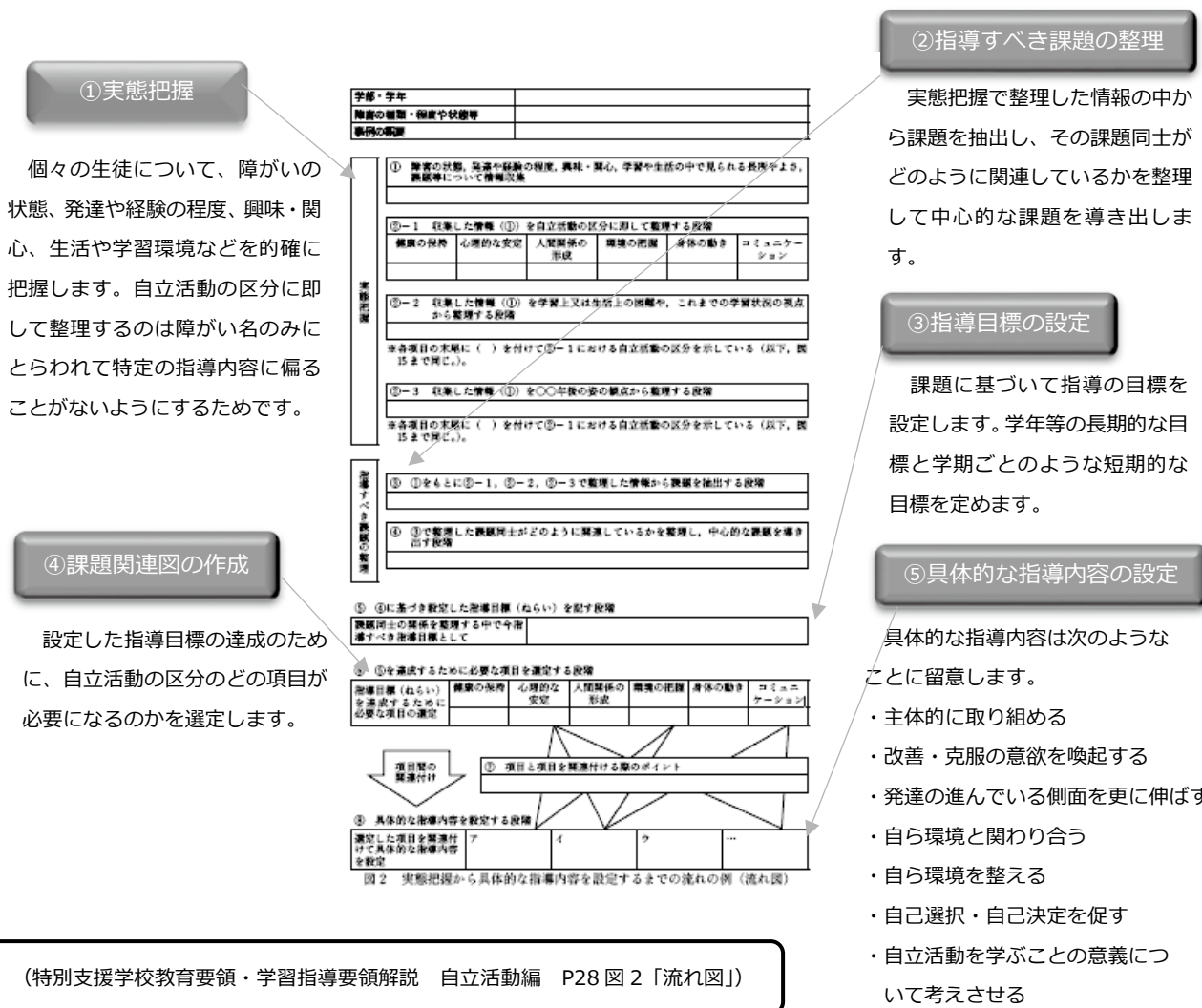
区分	観点	項目
1 健康の保持	生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること (3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること (5) 健康状態の維持・改善に関すること
2 心理的な安定	自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く	(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること
3 人間関係の形成	自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること
4 環境の把握	感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする	(1) 保有する感覚の活用に関すること (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

5 身体の動き	日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること (3) 日常生活に必要な基本動作に関すること (4) 身体の移動能力に関すること (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること
6 コミュニケーション	場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

一人ひとりの障がいの状態は異なり、自立活動の指導においても指導内容・方法が異なります。一人ひとりの生徒に応じた計画を立てる必要があります、そのために、「個別の指導計画」を作成します。

指導目標及び指導内容の作成について


自立活動の指導目標の作成手順は以下のようになっています。



自立活動の評価について

自立活動における学習の評価は、個々の生徒の指導目標に照らして、実際の指導がどのように行われ、その実現に向けてどのように変容しているかを明らかにするものです。また生徒のつまづきや、それを改善するためにどのような指導をしていけばよいかを明確にしようとするものでもあります。評価を通して、指導方法を振り返りながら、生徒の実態に合わせて、指導目標についても適宜見直しを図りましょう。

評価に当たっては、指導目標を設定する段階において、生徒の実態に即し、その到達状況を具体的に捉えておくことが必要です。例えば、「自分の病気を理解する」ことを指導目標とした場合、「学校での健康状態の把握において、平熱などの通常の状態を知り、シートに記入しながら、自ら不調に気づく」というように何をどのような方法で理解させるのかということ具体的に記述しておきます。そうすることで「検温するのを1週間のうち3回忘れることがあった」など、生徒の具体的な行動や観察できる状態として評価が可能になります。



コラム <自立活動の基本的な考え方と意義について>

自立活動は、個々の障がい等から生じる学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な指導領域として、従前から支援学校の教育課程に位置付けられてきました。小・中学校等の教育は、児童生徒の生活年齢に即して系統的・段階的に進められていて、その内容は、発達段階等に即して選定・配列されており、それらを順に教育することで人間としての調和のとれた育成を図っています。しかし、障がいのある児童生徒の様々なつまづきや困難は、発達段階を考慮して教育するだけでは十分とは言えません。そこで、発達段階だけではなく、「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」と「障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」から分類・整理した自立活動の内容（6区分27項目）が設定されています。このため支援学校においては、小・中学校等と同様の発達段階に即した各教科等に加えて、自立活動の領域が特設され、その両面から人間として調和のとれた育成をめざしています。

この自立活動が、新学習指導要領の全面実施に伴い、小・中学校の支援学級に在籍する児童生徒にも取り入れられることになりました。これは、一人ひとりの障がい等の状況や違いから生じる様々な困難を改善・克服していくことによって、各教科等の指導の基盤を形成し、各教科の指導の効果や集団参加を促進する有効な進展と言えます。この自立活動の「自立」とは、身辺自立、社会的自立、職業的自立ではなく、主体的に自己の力を可能な限り発揮して取り組もうとすることを大切に、単に一人でできることでなく、自己決定や自己選択、適切なヘルプの表出も「自立」の概念になります。

実際に自立活動の指導で取り組まれている事例の実態としては、例えば、言語理解の程度に比較して表出言語が極めて少ない、発音が不明瞭で聞き取りにくい、心理状態が不安定になりパニックになりやすい、極めて動きが多く注意集中が長く続かない、他者に意思を伝えたり関わりを求める方法や他者と仲直りしたりあやまる方法がわからない等で、いずれも発達段階の考え方だけではとらえきれない内容です。

具体的な自立活動の実践事例として、中学校2年生の自閉スペクトラム症のあるAさんの事例を紹介します。Aさんは相手の意図理解や状況の把握に時間がかかり、友だちの行動に対して適切に応じることができない状態でした。そのため、なんとなくわかっている部分があってもうまく言葉で表現できず、その場の状況の説明、自分の気持ちを表現することが難しく、自己肯定感が低下していました。そこで、自立活動として、体験的な活動を通して自分の得意なことや不得意なことの理解を促したり、他者の意図や感情を考え、その対応方法を身に付けたりする指導を行うことになりました。具体的には、想定されない場面で、「こんなときどうするか」、「この行動とこの行動ではどちらが望ましいか」等のように比較しながら、ソーシャルスキルの指導を系統的に進めていきました。そうした成果として、場面や状況に応じた言語活動や、わからないときのヘルプの出し方が身につくにつれて、教科学習場面での発言の仕方や、友だちとの対応関係もスムーズになるとともに、進学を控えるAさんの自己理解と自己肯定感も高まってきました。

このように、自立活動の指導は、的確な実態把握のもと、幼児児童生徒の中核的な課題を明確にし、ストロングポイントを活用しながら、教科指導や集団参加への基盤づくりを担っていくことになります。自立活動を展開していくための個別の指導計画の作成においては、学校と家庭が連携し、自立活動のねらいと内容（6区分27項目）を選定していくプロセスを共有し、丁寧に進めていくことが大切です。

大阪大谷大学 小田 浩伸 教授

IV 各教科等を合わせた指導について

指導の形態

支援学級（知的障がい）においては、生徒の学校での生活を基盤として、学習や生活の流れに即して学んでいくことが効果的であることから、「各教科等を合わせた指導」と呼ばれる指導形態をとる場合があります。支援学級においては、「特別支援学校（知的障害）の各教科」に替えて教育課程を編成する場合があることから、指導を担当する教員は、支援学校（知的障がい）の指導の実際についても理解を深めておくことが重要です。

知的障がいのある生徒の教育的対応の基本

知的障がいのある生徒の学習上の特性等をふまえ、学習環境面を含めた生徒一人ひとりの確実な実態把握に基づき、次のような教育的対応を基本とすることが重要です。

- (1) 生徒の知的障がいの状態、生活年齢、学習状況や経験等を考慮して教育的ニーズを的確に捉え、育成をめざす資質・能力を明確にし、指導目標を設定するとともに、指導内容のより一層の具体化を図る。
- (2) 望ましい社会参加をめざし、日常生活や社会生活に生きて働く知識及び技能、習慣や学びに向かう力が身に付くよう指導する。
- (3) 職業教育を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能、態度及び人間性等が育つよう指導する。その際に、多様な進路や将来の生活について関わりのある指導内容を組織する。
- (4) 生活の課題に沿った多様な生活経験を通して、日々の生活の質が高まるよう指導するとともに、よりよく生活を工夫していこうとする意欲が育つよう指導する。
- (5) 自発的な活動を大切に、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力等を育むよう指導する。
- (6) 生徒が、自ら見通しをもって主体的に行動できるよう、日課や学習環境などを分かりやすくし、規則的でまとまりのある学校生活が送れるようにする。
- (7) 生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際の状況下で指導するとともに、できる限り生徒の成功経験を豊富にする。
- (8) 生徒の興味や関心、得意な面に着目し、教材・教具、補助用具やジグ等を工夫するとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、生徒の学習活動への意欲が育つよう指導する。
- (9) 生徒一人ひとりが集団において役割が得られるよう工夫し、その活動を遂行できるようにするとともに、活動後には充実感や達成感、自己肯定感が得られるように指導する。
- (10) 生徒一人ひとりの発達の側面に着目し、意欲や意思、情緒の不安定さなどの課題に応じるとともに、生徒の生活年齢に即した指導を徹底する。
(特別支援学校学習指導要領解説より)

上記の教育的対応をふまえ、生徒の知的障がいの状態等に即した指導を進めるため、「教科別の指導」を行う場合と、「各教科等を合わせた指導」を行う場合があります。

いずれの場合においても、各教科等で育成をめざす資質・能力を明確にして指導に当たる必要があることは言うまでもありません。

教科別の指導

「教科別の指導」は、「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」に示す「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科」について、教科ごとの時間を設けて指導を行うことを表します。指導を行う教科やその授業時数の定め方は、対象となる生徒の実態によつ

て異なるので、一人ひとりの生徒の興味や関心、生活年齢、学習状況や経験等を十分に考慮し、一人ひとりの生徒の実態に合わせて、個別的に教科別の指導で扱う内容を選択・組織します。

各教科等を合わせた指導

学校教育法施行規則第 130 条第 2 項に、「特別支援学校の小学部、中学部又は高等部においては、知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる」という規定があります。これにより、中学校の各教科の目標や内容の一部または全部を「**特別支援学校（知的障害）の各教科**」に**替える場合**、各教科等それぞれの時間を設けて指導を行うほか、生徒の知的障がいの状態等に即した指導を進めるために、**各教科、道徳科、特別活動及び自立活動を合わせて指導を行うことが可能**になっています。これが「各教科等を合わせた指導」と呼ばれるものです。

「各教科等を合わせた指導」は、学校での生活を基盤として、学習や生活の流れに即して学んでいくことが知的障がいのある生徒に対し効果的である、という考えのもと行われています。「特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）」には、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習といった指導の形態が例示されています。ただし、「**各教科等を合わせた指導**」は**教科や領域ではない**ことから、学習指導要領に目標や内容は示されていません。「各教科等を合わせた指導」を行う場合においても、**合わせている各教科等の目標を達成していく**こととなります。そのため、各教科等で育成をめざす資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要となります。

指導形態の例	指導形態の特徴	指導内容例
日常生活の指導	生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動について、知的障がいの状態、生活年齢、学習状況や経験等をふまえながら計画的に指導するもの。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の内容（衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔など） ・日常生活や社会生活において、習慣的に繰り返される、必要で基本的な内容（あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ることなど）
遊びの指導	遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかわりを促し、意欲的な活動を育み、心身の発達を促していくもの。	<ul style="list-style-type: none"> ・場や遊具等が限定されることなく、比較的自由に取組むもの（自由遊び） ・期間や時間設定、題材や集団構成などに一定の条件を設定し活動するといった比較的制約性が高い遊び（設定遊び）
生活単元学習	生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際的・総合的に学習するもの。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の生活上の目標や課題に沿った内容（日常生活、季節や学校行事を意識した取組み）
作業学習	作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するもの。	<ul style="list-style-type: none"> ・農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、窯業、セメント加工、印刷、調理、食品加工、クリーニングなど ・事務、販売、清掃、接客など

<参考> 各教科等一覧

「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う
特別支援学校の各教科等」

高等部	各学科に共通する各教科										特別の教科 道徳	総合的な 学習の時間	特別活動	自立活動		
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	職業・家庭	外国語※1	情報※2						
	主として専門学科において開設される各教科															
	家政	農業	工業	サービス	流通	福祉										

※1 教科として設けることができる
※2 教科として設けることができる

中学部	各学科に共通する各教科										特別の教科 道徳	総合的な 学習の時間	特別活動	自立活動
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	職業・家庭	外国語※					

※教科として設けることができる、段階は設けていない

小学部	各学科に共通する各教科						特別の教科 道徳	外国語活動※	特別活動	自立活動
	生活	国語	算数	音楽	図画工作	体育				

※学部3年以降の児童を対象とし、国語科の3段階の目標及び内容との関連を図ることができ、設けることができる、段階は設けていない

「小学校、中学校、高等学校の各教科等」

高等学校	各学科に共通する各教科										特別の教科 道徳	総合的な 学習の時間	特別活動
	国語	地理歴史	公民	数学	理科	保健体育	芸術	外国語	家庭	情報			
	主として専門学科において開設される各教科												
	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	理数	体育	音楽	美術	英語

※学校設定科目及び学校設定教科

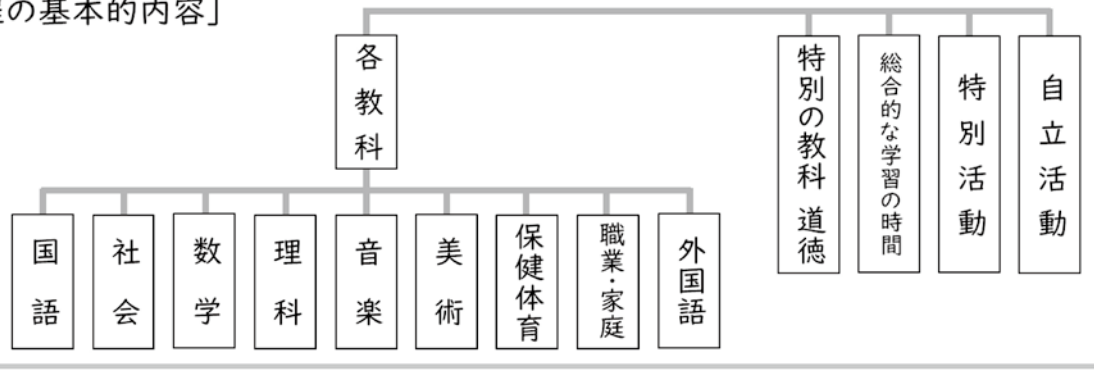
中学校	各学科に共通する各教科										特別の教科 道徳	総合的な 学習の時間	特別活動
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語				

小学校	各学科に共通する各教科										特別の教科 道徳	外国語活動※	総合的な 学習の時間	特別活動
	国語	社会※	算数	理科※	生活※	音楽	図画工作	家庭※	体育	外国語※				

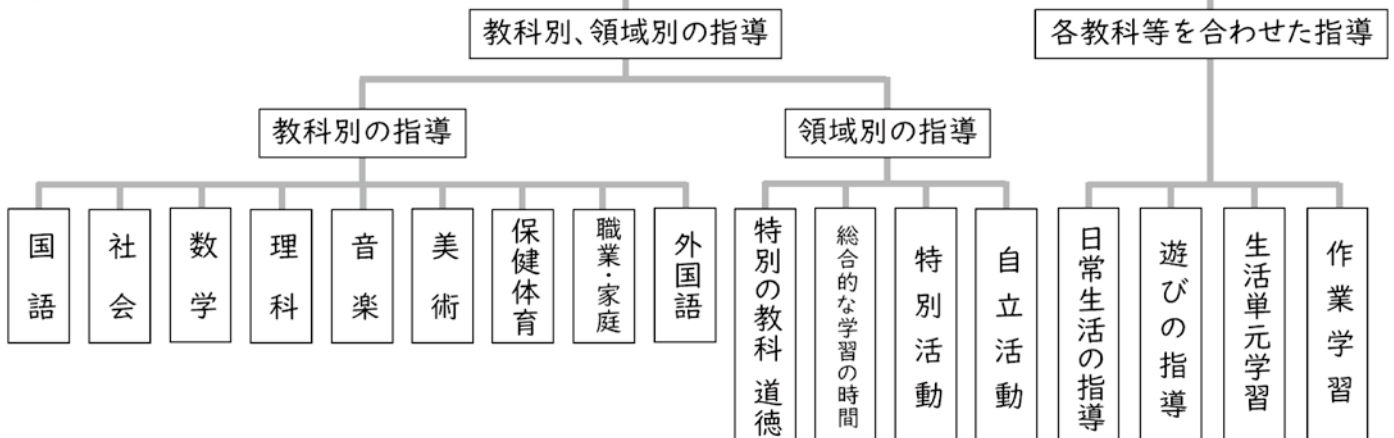
※社会3-6年、理科3-6年、生活1・2年、家庭5・6年、外国語5・6年、外国語活動3・4年

<参考> 知的障がい教育課程の構造

[教育課程の基本的内容]



[指導の形態]





コラム <信頼・尊敬される教師とは>

大学生 150 人に、今まで出会った「信頼できる先生」「信頼できない先生」とはどんな先生だったかについて、アンケートを取ったことがある。すると、「信頼できる先生」の一番の理由は、「きちんとほめ、叱ってくれる先生」だった。そして叱る基準がぶれないことである。

若いとき、生徒に好かれようとして、生徒の機嫌を取ったり、物わがりのいい教師を演じていたら、たちまち私の指示は通らなくなったことがあった。そこで、私は方向を 180 度転換し、怖くて厳しい先生を演じ怒鳴り始めた。しばらくするとまた私の指示は通らなくなり、騒然とした崩れた教室になっていった。これは、叱る基準が途中で変わったこと、つまり基準がぶれたこと、そして、厳しさのみで生徒を抑えようとしたことが原因である。

生徒は怖いから、その教師の言うことを聞くのではない。確かに怖い教師の前ではおとなしく演じているかもしれないが、力にものを言わせるその教師の態度を軽蔑しているだろう。

つまり、生徒が自ら内面を変化させようとする時、また自らの間違いを認め変わろうと思うのは、教師を信頼し相手の言うことに納得した時だけである。そして生徒への好意に満ちた語りかけこそが、信頼関係構築の礎になるのである。

桃山学院教育大学 松久 眞実 教授



V 障がい種別等に応じた自立活動の実際

障がい種別		学年	
-------	--	----	--

実態把握等	≪障がいの状況等≫ 【学習上の困難】 ・ 【生活上の困難】 ・ 【社会性・コミュニケーション】 ・	実態把握は根拠が大切。行動観察、検査結果の活用、情報収集（保護者や関係機関、就学前施設等） また、チェックシートなど、客観的に把握できるツールを活用することも有用。最終的には、教員の見る力を育てることが大切。第一印象を必ず記録しておくこと。
	≪本人・保護者の願い≫	保護者の願いや意向をふまえた目標を設定することも大切。

自立活動の区分に即して実態把握の整理					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

1年後をみすえた長期目標	長期目標の設定期間は、1年間程度で設定することが好ましい。（長い期間になると、本人や保護者、教員もイメージを持ちにくくなる。）
--------------	---

短期目標（1学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・短期目標は達成可能なものを設定する。 ・子どもの良さ、ストロングポイントが目標設定に反映されているか。 ・目標設定時に条件をつける。（例 ～の支援があればできる。～の場面のできる。回数、期間、何分等、数値で測れるもの） ・まず、めざすべき姿をイメージして目標設定し、どう評価するのか、どのような指導を行えばよいか等、逆算的に指導計画を立てることも必要。 ・技能（～できる）だけに着目するだけでなく、態度（～しようとする）、判断、表現といった観点も検討する。
-----------	---

具体的な指導内容（指導場面）		
目標達成に向けた合理的配慮		
関連する自立活動の区分	調和的な発達をめざすために、6区分27項目の様々な項目からのアプローチが必要。	
めざす姿	評価規準は具体的で明確であるとよい。数値で測れるもの（回数や時間等）を規準として設定できればなおよい。	

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学年 _____

指導場所 _____

個別学習・グループ学習・その他（ ）

1. 主題（題材等）

2. 本時の目標

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入			
展開			
まとめ			

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	弱視①	学年	中学校 第2学年
-------	-----	----	----------

実態把握等	<p>「障がいの状況等」</p> <p>視覚障がい（全盲） ・身体障害者手帳1級所持</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校時より点字教科書を使用し、点字を読み書きして学習を行っている。 ・中学で習う各教科における点字特有の表記やルールを覚え、学習を行っている。※UEB（統一英語点字）の縮約のルールを含む。 ・各教科で使用される図形、表、グラフ、絵など視覚情報が多い分野や、技術や美術など細かい作業が伴う分野、体育など視覚情報に基づく実技をする分野について、実感を伴う理解が難しいことがあるが、「言語化する」「触察する」「実際に体感する」などを通して、既習範囲の情報を補いながら理解することができる。 ・ブレイルメモなど ICT 機器を使うことで、ワークやプリントなど教材のやり取りをすることができる。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学校生活や自立活動の指導の積み重ねにより、校内の場所はおおよそ把握して移動できる。 ・学校生活の中で、周囲の人たちに遠慮しすぎて、他者に助けを求める機会を逸してしまうことがある。 ・突発的な周囲の変化に気づきにくく、また周囲の状況を知りたい気持ちが大きいので、口頭で詳しく状況説明を求めることが多い。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級の中で友だちを作れるよう、自分の居場所を見つけて行動する力を身に付けようとしている。 ・視覚情報が必要なコミュニケーションや、自分の気持ちや考えを相手に伝えることが苦手であるが、発信しようという意欲がある。 ・基本的な集団行動のルールなど前もって知っていれば、理解して行動に移すことができる。
	<p>「本人・保護者の願い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちを作りたい。 ・クラスのみならず一緒に活動したい。 ・高等学校に進学したい。

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の障がいについて理解し、自分のできごととできないことを把握した上で行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何でも前向きに、理解するための方策を考え、あきらめずに学習し続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや考えを相手に伝えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で聞いたり触ったりして、周囲の様子を理解しようとしている。 ・UEB のルールを学んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作を言語化することで、その動きを理解し、動作化することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときなどに、クラスの人や教員に質問することが苦手である。

1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・UEB の縮約ルールをすべて習得する。 ・クラスメートと、適切にコミュニケーションがとれる。
--------------	--

短期目標（1学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・UEB の縮約を「さがり縮約部」まで習得する。 ・クラスメート全員の声と名前を覚える。
-----------	---

具体的な指導内容（指導場面）	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいクラスメートの声と名前を覚える。 ・新しいクラスメートに自己紹介をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UEB のさがり縮約部を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に合わせて ICT 機器を積極的に使用する場面を増やす。
目標達成に向けた合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学級のクラス編成について情報提供をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UEB の縮約に関する練習問題の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の整備をする。 ・ワークやプリントなどのデータの準備をする。
関連する自立活動の区分	(心) (2) (人) (1) (コ) (4) (コ) (1) (5)	(環) (3) (コ) (2)	(心) (3) (身) (5) (コ) (4)
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスメート全員の声と名前を覚える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UEB のさがり縮約部を英語の授業で活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の機能を理解し、使うことができる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第2学年

指導場所：弱視学級

指導形態：個別学習

1. 主題（題材等）

- ・統一英語点字（UEB: Unified English Braille）の縮約ルールを知り、英語学習の中で運用することができる。

2. 本時の目標

- ・UEBの「さがり縮約部」（10種類）が、単語のどの部分を縮約できるのかを知る。
 ※語頭のみ（be、con、dis）、語中のみ（ea、bb、cc、ff、gg）、単語の全ての部分（en、in）
- ・実際に問題を解きながら、「さがり縮約部」がどのようなルールで使われているかを確認する。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のめあてを確認する。 ・前回取り組んだUEBの縮約ルールについて前回の演習問題で復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容と目標を、本人と確認する。 ・前回取り組んだ問題に関する理解を確認する。 ・間違えた問題を中心に使われ方を再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学んだUEBの縮約を習得している。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・UEBの「さがり縮約部」を、点字レジュメを通して学ぶ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> “be”come, “con”cert, bi”gg”er, t”ea”cher, f”in”ish, など 使えない例：easy 等も盛り込む ※“”を縮約で表記する。 </div> ・演習問題を解く。 ・演習問題の答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んだUEBのルールも参考にしながら、それぞれの使用の有無を考えさせる。 ・わかりにくいところの質疑応答をする。 ・特に、どのような場面では使えないのかを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「さがり縮約部」の種類を覚えている。 ・「さがり縮約部」が入った英文の読み書きができる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの授業で、疑問に感じているところがないか確認する。 ・これからも、教科書に使われているUEBを読み書きの活動を通して使い慣れるよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「さがり縮約部」について理解ができています。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	弱視②	学年	中学校 第2学年
-------	-----	----	----------

実態把握等	<p>「障がいの状況等」</p> <p>弱視 小児性緑内障 右目の視力がほとんどなく、左目の視力は0.3程度。身体障害者手帳4級所持</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書見台を用いて眼圧を高めず、目や体の負担を軽減する。ルーペ、単眼鏡を使用。 ・地図やグラフ用紙、漢字の画数の多いものは読み取りにくいいため、拡大教科書やタブレットを使用。 ・体育でボールの位置などの把握が難しいことや、幅跳びで踏切版が見えにくいことなどに恐怖心があるため、声掛け等でサポートを実施。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生まれた時からの小児性緑内障で視線が合わないことがある。 ・視野狭窄のため、全体像が分かりにくい、段差・階段などの位置を覚えれば、一人で移動できる。 ・方向感覚、距離間、空間認識力が弱い。 ・今の視力を保持するため、左目に負担がかかりすぎない（眼圧を高めない）ようにする必要がある。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級の生徒とのかかわりには消極的だが、支援学級では皆と打ち解けて話し合える。 ・困ったときに自分からサポートを求めることは苦手であるが、集団の基本的なルールを理解し、声掛けがあれば、みんなと行動できる。 ・友だちに対し、優しく接することができる。
	<p>「本人・保護者の願い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見えにくいことへの配慮と安全性を確保し、自信をもってみんなと同じように学校生活を送ってほしい。

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・眼圧が高くならないよう、また目に物が当たらないよう配慮し、現在保有する視覚機能維持に努める。	・見えないということへの不安が学習面・生活面での消極的活動を誘引する原因のひとつとなっている。	・優しく親切で自分のこと以上に相手や友だち思いである。	・タブレット、ルーペ、単眼鏡で視覚補助を行い、相手の様子や周囲の状況を音や感覚で把握している。	・日常生活に支障はないが、段差や階段など見えにくいことがある。 ・常に見える方の目を使うので、首が傾き負担がかかりやすい。	・友だちのことをよく理解しているが、遠慮しすぎて自分の気持ちを伝えにくい。

1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目に負担がかからないよう、その場に応じたツールが使えるようになる。 ・コミュニケーション力を付け、円滑な人間関係を作る。
--------------	--

短期目標（1学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動等をととして、友だちとコミュニケーションをとり、協力できるようになる。 ・学習活動において状況に応じた補助ツール（単眼鏡・ルーペ・タブレット・PC・書見台等）を活用できる。
-----------	---

具体的な指導内容（指導場面）	・視覚的状况に、困ったことや不都合が生じる場面。	・補助ツールを活用する場面。	・係活動に取り組む場面。
目標達成に向けた合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・常にタブレットや単眼鏡などを保持し、困ったときに活用する。 ・自分から周りに助けを求められるように声掛けする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の黒板に白チョークの使用。 ・単眼鏡・ルーペ・書見台・タブレットの使用。 	・係活動に必要な補助道具等の提供。
関連する自立活動の区分	(心) (3) (人) (1) (3) (4) (環) (3) (コ) (1) (2)	(心) (3) (環) (3) (身) (2) (5)	(心) (2) (人) (1) (2) (環) (1) (コ) (1) (2) (5)
めざす姿	・周囲とコミュニケーションをとりながら、状況に応じた補助ツールを活用する。	・学習活動において、必要な補助ツールを使用できる。	・友だちと協力して係活動に取り組んでいる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第2学年

指導場所：弱視学級

指導形態：個別学習

1. 主題（題材等）

- ・ 伴ってかわる量を理解し、1次関数（正比例）のグラフが書ける。

2. 本時の目標

- ・ 学習活動において、必要な補助ツールを使用できる。
- ・ 身近な例から伴って変わる量に関心を持ち、グラフ化できるようになる。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ。 【四則計算 復習】 ・ タブレットを操作し、問題を目視する。 ・ 罫線ノートに問いを書き写し、答えを書く。 ・ タブレットを活用し、答え合わせ。 【一次関数】 ・ 拡大教科書 P.58 から P.61 を音読する。自分なりの意見・考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつの前に、授業準備物がととのっているか確認する。 ・ 操作がきちんとできているか。 ・ タブレット操作やノートに書く際に、眼圧を高めず、左目への負担を軽減するため、書見台を使用し、姿勢を確認する。 ・ 正しく読めているかを確認する。 ・ 内容の要点がつかめているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットの操作において、必要な箇所の拡大ができる。 ・ ルーペ・書見台等、必要なものが、必要な時に使える。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伴って変わる量について、身近な例を口頭であげる。 ・ タブレットでも検索をする。 ・ 関係式と式に沿った表を罫線ノートに書く。 ・ 関係式と表から、黒板にグラフを書く。 ・ 黒板の全体像をとらえるため、タブレットで写真を撮り、自分が見えやすい大きさに拡大しながら取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 携帯の使用時間と料金、ジュースの値段と本数など、本人の身の回りのものから考えるよう促す。 ・ 作業量と日数、買ったものの数と値段など例が分かりにくいときは、タブレットで調べるように促す。 ・ 緑の黒板（大きめ）にメモリを付けたものを用意する。 ・ 写真は本人が撮るが、うまく焦点が合っていないときは、支援をする。 ・ グラフの座標を確認させる。 ・ 表からグラフの点を取り、グラフ黒板に直線で結ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しく検索できる。 ・ タブレット、ノート、黒板それぞれの良さを使い分けして考えることができる。 ・ 単眼鏡・ルーペを必要に応じて活用できる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ めあてを振り返る。「伴って変わる量に興味を持ち、正しく理解できたか」 ・ タブレットを活用し、画像をデータ保存する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書けた表、グラフを画像によるデータにて提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係式をあらわす、表・グラフがかける。 ・ タブレット機能を活用したデータ保存等ができる。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	難聴①	学年	中学校 第1学年
-------	-----	----	----------

実態把握等	<p>「障がいの状況等」</p> <p>右：64dB 左：69dB 両耳補聴器装用 装用閾値： 右：34dB 左：34dB</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該学年の学習内容が理解できている。 ・班での話し合い活動の際には、誰が発言しているかなどを明確にし、文字を提示するなどの視覚的支援があれば、聞き間違いが少なくなる。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送機器等を使用する場合は、近くに置く CD デッキからの情報が比較的聞き取りやすい。 ・クラスの友だちと会話する際は、相手の身振り手振りをしっかり見て、情報を得ようとする姿勢が見られる。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かな環境の中では、音声のみでコミュニケーションできる。通常の学級では、相手の口元が見えない状態での小さい声は聞き取りにくい時がある。 ・聞き取れなかった際には、自分から質問することができる。
	<p>「本人・保護者の願い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生が話す速さや声の大きさ、聞き取りやすさを自分で伝え、支援を求められるようになって欲しい。 ・聞こえにくくても「聞こえる、わかる」と言うことがあるので、分かりにくい時や、分からない時は「分からない」「聞き取れない」と、はっきり言えるようになって欲しい。 ・同級生に、自分の苦手な環境（屋内のスピーカーの反響による聞こえの変化など）を説明できるようになりたい。

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・補聴器の管理が自分でほぼできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の聞こえにくさについて理解している。 ・集団場面などで、情報が得にくい時に不安になることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要約筆記や身振り手振りのような視覚的な支援があれば、話の内容理解が進む。 ・学級代表を務め、学校行事の取り組みに積極的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に両耳に補聴器を装用している。 ・手話・指文字を使用している。 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意図が伝わっていない時は、説明しようとする姿勢が見られる。 ・難聴生徒同士は、手話・指文字でコミュニケーションを図ることがある。

1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞くこと、自分の話を伝えるために工夫してやりとりを行うことができる。 ・語彙を増やし、表現を豊かにする。
--------------	---

短期目標（1学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りにくい時は、その場で自分から質問することができる。 ・語彙を増やし、手話や指文字を交えて話すことができる。
-----------	---

具体的な指導内容（指導場面）	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りにくいときに相手に伝えたり、質問をしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手話・指文字を交えながら、学校生活について話す。 	/
目標達成に向けた合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚情報を準備する。 ・相手に伝えたり、質問をしたりする方法を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が増えるよう、本人と会話する機会を増やす。 ・習得したことばを使って話すように促し、正しい文章を提示する。 	/
関連する自立活動の区分	(健) (4) (心) (1) (3) (環) (4) (コ) (1) (4)	(人) (3) (環) (3) (5) (コ) (1) (2) (3) (4)	/
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや要望を自ら相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを述べるができる。 	/

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第1学年

指導場所：通常の学級

指導形態：一斉・ペア学習

1. 主題（題材等）

・「聞き上手になろう」（光村図書1年 P.116・117）

2. 本時の目標

- ・聞き方の工夫や質問の種類を知り、質問を考えることができる。（A話すこと・聞くこと(ウ)）
- ・聞き取りにくいときに、相手に伝えたり質問を交えたりしながら、話を確認することができる。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 P.116・117 を読み、聞く態度・聞き方の工夫・質問の種類について知る。 ・教科書に加えて、質問には次の働きがあることを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・わからないことを尋ねる ・話の続きを促す ・より詳しい話を引き出す ・相手の話を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に、教科書のページやパワーポイントのスライドを提示し、マーカーする部分や、音読する箇所を表示する。 ・説明について、要約筆記などで視覚的に示す。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを活かし、P.116 例の話への質問を考えて、ノートに書く。 ・ペア相手とノートを見せながら質問を共有する。 ・事前に書いてきた原稿を準備する。 ・ペア相手と交互に話す。聞き手は質問する。聞き取れないときは、相手に伝える。 ・お互いの原稿を見て、わかりにくかったところを確認する。わかりやすかったところ、聞き取りやすかったところをペア相手と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに記入している内容や活動の様子を見て、本人の理解の状況を確認する。 ・お互いに身振り手振り、筆談を交えて話してもよいことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを活かした質問ができる。 ・聞き取れなかったときに質問ができる。 ・質問をとおして、話を理解しようとする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことをふまえながら、実生活に結び付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も相手の話を意欲的に聞くようになる態度が見られる。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	難聴②	学年	中学校 第2学年
-------	-----	----	----------

実態把握等	<p>「障がいの状況等」</p> <p>中度難聴、身体障害者手帳6級、両耳とも補聴器を使用。両耳とも低音域は40dB程度、高音域は60dB程度。</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ス」「ク」など、高い音の聞き取りや発音が難しいことがあるが、友だちと会話の場合など、リラックスできている時は正しく発音することができる。 ・ノートやワークなどの提出物は、自ら計画的に取組み期限内に提出できている。 ・国語での教員の読みが聞こえにくく、漢字の読みや語彙の意味が理解できていなくても、その場で質問することが難しい。 ・理解できていないまま、学習を進めていることがあり、文章の組み立てや難しい語彙の習得が苦手。 ・英語や音楽では、活動に消極的になってしまうことがある。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内で一斉指示が聞こえにくい時でも、周囲をみて判断し行動することができるが、周りの人に助けを求めることが苦手である。 ・スケジュールを管理し、あらかじめ準備して提出物を仕上げ、授業に臨むことができる。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレー部に所属し、積極的に参加して、部員ともコミュニケーションをとる等、本人が安心できる集団だと社会性を発揮することができる。 ・新しい環境では、自ら進んで人に話しかけたり、交友関係を広げたりすることが難しい。 ・自分の考えを伝え、相手の意図を受け止めた双方向のコミュニケーションが成立していない時がある。
	<p>「本人・保護者の願い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞こえなかった、理解できなかった時に周りの人に助けを求めることができるようになってほしい。

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・聞こえる音、聞こえにくい音を自ら把握し、他者へ伝えることが難しい。	・集団の中で声を出す場面では消極的になってしまうことがある。 ・リラックスできている時は正しく発音することができる。	・集団や友だちとの会話等の情報を的確に把握できていない時がある。	・常に両耳に補聴器を装着している。 ・聞こえていなくても周囲を見て動いたり、周りに合わせて返事したりすることができる。		・聞こえにくかった新出単語等を聞き直すことをしないまま学習を進めているため、難しい語彙の習得が苦手。

1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れない環境でも聞こえに関して、自分の要望を伝えることができるようになるため、聞こえにくい箇所を自らで把握し確認するてだてを持つ。 ・集団において、声をだして積極的に話すことができる。
--------------	--

短期目標（1学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・聞こえにくい箇所を自ら把握するてだてを身に付け、聞き直すことができる。 ・比較的少人数の活動において、前向きに声をだして話そうとする。
-----------	---

具体的な指導内容（指導場面）	・様々な場面を想定し、自分の要望を伝えるには、どのような方法があるか考える。	・自信をもって集団活動に参加できるよう、文章を読んだり、発表したりする練習に取り組む。	・文章を聞き取る時に、マーカーをひく、メモをとるなどを行い、聞こえにくい箇所や話の内容を把握する。
目標達成に向けた合理的配慮	・ハンドサインやカードを利用して自分の要望を伝えられるようにする。 ・難しい話等は、筆談やICT機器で表出する等、視覚支援を行う。	・声の大きさや発音について、本人へのフィードバックを行い、自信をもたせるようにする。	・教材プリントの文章について、行間を広くし、マーカーをひく等、メモがとりやすいように準備する。
関連する自立活動の区分	(心)(2)(3) (環)(2)(3)(4) (コ)(5)	(健)(4)(環)(2) (人)(4)(コ)(2)(3)	(コ)(2)(3)(4) (心)(3)(環)(3)
めざす姿	・聞こえに関して、自分の要望を伝える方法を身に付け、安心して学習に臨むことができる。	・自信をもって声を出す活動に参加することができる。	・文章を聞きながら、わからないところを把握し、正確なやりとりができる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第2学年

指導場所：難聴学級

指導形態：個別指導

1. 主題（題材等）

- ・自分が困ったことの対処法を考えよう。

2. 本時の目標（めあて）

- ・聞こえにくい箇所を把握し、わからないところを具体的に伝えることができる。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のめあてを黒板へ掲示し、本日の活動を説明する。 ・活動に見通しをもたせ、意欲を高める。 	
展開	<p>『本やプリントがある時の解決法を考える』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文章①」について、教員による音読の聞き取りをする。 ・聞こえ方の確認のため、「文章①」を見ながら聞き、聞きにくいところにマーカーで線を引く。 ・聞き取りにくかったところを教員に聞く。 ・「文章①」を読む。 <p>『リスニングでの解決法を考える』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文章②」について、文章を見ずに、メモをとりながら、教員の音読を聞く。 ・内容に関しての簡単な質問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なるスピードで音読し聞こえ方の確認をする。 ・聞き取りしやすい早さを自覚できているか確認する。 ・声の大きさや発音について確認する。 ・難易度に気を付けて文章を選ぶ。 ・質問に対する答えは、文章で答えられるように指導する。 ・わからない時は「わかりません」だけでなく、どこがわからなかったかを具体的に言えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞きとりにくかったところにマーカーで線を引き、メモを取ることができる。 ・声の大きさに気を付けて、相手に伝わるように読める。 ・わからないところを教員に具体的に伝えることができる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の授業内容の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できたところを褒め、授業に自信をもって臨めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り、わかったこと、できたことを自分で整理できる。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	知的障がい①	学年	中学校 第2学年
-------	--------	----	----------

実態把握等	<p>《障がいの状況等》</p> <p>知的障がい ADHD（手帳：療育手帳B2）</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 提示された課題に対してコツコツと取り組むことができる。提出物は、保護者の協力もあり、事前に伝えることで期限を守って提出することができる。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空いた時間や緊張すると鼻をほじる、股を掻く等の不衛生な癖があり現在も継続した指導を行っている。 トイレに行くタイミングがうまくとれず、小学校時と中学1年時には教室で排尿してしまうことがあった。家庭では、排便時の便が便器や下着に付着することがある。 細かい作業は苦手だが、見本を見せたり、適切に補助したりすることにより、自力で取り組むことができる。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話す速度が速かったり、一方的に話したりするので、聞きとりにくいことがあるが、話す内容はユーモアがあり、小学校からのつながりのある友だちとは、良好な関係を築けている。頻繁に聞き取れないほどの小声で独り言をつぶやくが、注意せず見守ることで落ち着いて過ごすことができる。 困ったことがあっても、適切に「ヘルプ」を出せずに固まってしまうことがある。また、自分の都合の悪い話だと、落ち着かなくなり、視線を反らすような態度をとることがある。
	<p>《本人・保護者の願い》</p> <p>卒業後の自立をめざしての生活スキルを学んでほしいと考えている。</p>

自立活動の区分に即して実態把握の整理					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> 欠席することはなく毎日登校できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊張状態になると、周りに対して過敏になり、落ち着かないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> おひとりした人柄で特定の友だちと良好な人間関係を築いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面理解や状況判断には時間がかかる。 緊張した状態では、より判断がにぶくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 細かい作業は時間がかかる。 鉛筆が紙面に対して垂直になるような持ち方をしており、筆圧は強い。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとは一定のコミュニケーションがとれる。 支援学級担任以外にヘルプを出しにくい。

1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> 場面に応じた適切な行動ができる。 自分の思いを整理して会話ができる。
--------------	---

短期目標（2学期）	<ul style="list-style-type: none"> 自分の行動について振り返ることができる。 自分の考えや意見を自分の言葉で伝える方法を学ぶ。
-----------	--

具体的な指導内容（指導場面）	<ul style="list-style-type: none"> SST学習のワークシートを用いて、行動を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな「ヘルプ」の出し方について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、想定した場面の中で、自分の言葉で伝えることができる。
目標達成に向けた合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的にわかりやすい補助教材を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> イラストを提示し、場面を想像しやすくする。 タブレットを活用して、表現方法を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな場面を想定するために、動画を活用して考え実行する。
関連する自立活動の区分	(心) (2) (3) (人) (3)	(心) (1) (人) (3) (コ) (1) (2)	(人) (1) (2) (コ) (3) (4) (5)
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身を客観的に見つめ直し、行動の改善ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな人に「ヘルプ」を出せるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの「話し方」について振り返り、適切に会話ができる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第2学年

指導場所：知的障がい学級

指導形態：グループ学習

1. 主題（題材等）

- ・ヘルプの出し方について学ぼう。

2. 本時の目標

- ・自分の言葉でヘルプを出そう。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	・本時の目標・学習内容について確認する。	・本時の目標、学習内容について説明する。	・教師の説明に対して相槌をうつ等の反応ができる。
展開	<p>1.学校生活の中で困ったことをあげる。</p> <p>2.具体的な例を動画で視聴する。</p> <p>3.ワークシートを記入する。</p> <p>① 困ったことが起きた時の気持ち</p> <p>② ヘルプのセリフ</p> <p>③ ②が言えた時の気持ち</p> <p>4. 一場面ずつ共有する。</p> <p>5. 自分が考えた言葉を使用して、タブレットで撮影する。</p> <p>6. 撮影したものを視聴し、気づきを共有する。</p>	<p>・学校生活での困ったことを場面ごとに分けて考えるために視覚的な補助教材を提示する。 (授業・休み時間・給食・部活動等)</p> <p>具体的な例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物を忘れた。 ・授業中にトイレに行きたくなくなった。 ・給食の量を減らしたい。 <p>※ 助けを求めるときの「定型文」を提示するがその定型文に捉われずにどんな伝え方があるかを考えさせる。</p> <p>定型文例</p> <p>「今日提出のワークを忘れました」 「すみません、トイレに行きたいです」 「ごはんの量を減らしてほしいです」</p> <p>→独自の言い方でも伝えたい気持ちが聞き手に伝わるとよいということを助言する。</p>	<p>・困ったことを振り返ったり、周りと話し合ったりすることができる。</p> <p>・自分の考えを記述することができる。</p> <p>・意見を言うことができる。</p>
まとめ	・本時の学習内容について振り返りを記入する。	・本時の学習したことについて確認する。	・学習について振り返ることができる。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	知的障がい②	学年	中学校 第1学年（生徒A）
-------	--------	----	---------------

実態把握等	<p>《障がいの状況等》 知的障がい ADHD</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語4線にアルファベットを書くことができる。5分間ほど継続して活動ができるようになった。暗記など努力をする前に「どうせ無理だ」と言って諦めて活動をやめてしまう。活動がしんどくなると席を立ってしまう。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩き方がやや前傾姿勢で、授業中は姿勢を正して椅子に座ることができない。自分の好きな映画の内容を詳しく順序立てて説明することができる。興味のある物に勝手に触れてしまい、力加減がわからず壊してしまう。整理整頓が苦手。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームや漫画の話をするのが好きで、その会話の内容をしっかりと覚えておくことができる。友だち同士が言い合いをしているところに入って仲裁することができる。一方で、片方に便乗し何も考えず友だちを傷つけてしまうことがある。体育大会の集団演技が苦手、登校が難しいことがある。その際は、体育の授業にいかず支援学級で過ごし、気持ちが落ち着いたら見学に行き客観的に授業を見るなど、段階を踏んで取り組んできた。その結果、授業に参加できるようになり、当日も参加することができた。最初に褒められることで素直に聞き入れることが多くなってきた。
	<p>《本人・保護者の願い》 本人：勉強で集中できるようにしたい。 保護者：人間関係をうまく構築してほしい。クラブ活動を頑張してほしい。</p>

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> 暗記など努力をする前に「どうせ無理だ」と言って諦めて活動をやめてしまう。 活動がしんどくなると離席してしまう。 最初に褒められることで素直に聞き入れることが多くなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だち同士が言い合いをしているところに入って仲裁することができる一方、片方に便乗し、意図せず友だちを傷つけてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味のある物に勝手に触れてしまい、力加減がわからず壊してしまう。 整理整頓が苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩き方がやや前傾姿勢で授業中50分姿勢を正して椅子に座ることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな映画の内容を詳しく順序だてて説明することができる。 ゲームや漫画の話でコミュニケーションをとることができる。

1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> 活動をやり遂げるために集中力と姿勢を保持することができる。 相手の気持ちを考え、適切な言葉を選ぶことができる。
--------------	--

短期目標（2学期）	<ul style="list-style-type: none"> 活動時は、椅子に座ることができる。 自分の発言に対して相手が喜んでいたり嫌がっているか判断できる。
-----------	--

具体的な指導内容（指導場面）	・チームで会話をしながらゲームを楽しむ。	・姿勢を長く保てるように体幹を鍛える。	・見通しを持ち、項目ごとに課題を持って取り組む。
目標達成に向けた合理的配慮	・相手の目線や表情に気付くように声をかける。	・トレーニングではなく、ゲームとして活動を取り入れる。	・視覚的に理解しやすいようにめあてを掲示し、プリントで各項目の課題の確認と達成をチェックできるようにする。
関連する自立活動の区分	(心)(1) (コ)(2) (環)(1)	(身)(1) (環)(1)	(心)(2) (環)(2)
めざす姿	・相手の気持ちを考えながら会話を進められるようになる。	・自分の体をコントロールできる。	・主体となって授業を進め、集中して活動を行うことができる。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	知的障がい②	学年	中学校 第1学年（生徒 B）
-------	--------	----	----------------

実態把握等	<p>「障がいの状況等」</p> <p>知的障がい・ADHD・てんかん（2・3年発作無し）</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題は時間がかかるが最後までやり遂げることができる。消極的な発言を繰り返す。疲れたと言って姿勢を保持できない。教員が隣に座って細かく指示をださないと活動が止まっていることが多い。自立活動では、好きなアニメを題材にすると積極的に活動することができ、発表も最後までしっかりできる。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ノーチャイムでも時間を意識して行動することができる。忘れ物が多く、整理整頓が苦手なためプリントをなくす。園芸部の活動中に拾った石を家で何時間もかけてやすりで磨き、学校でも大事にもっている。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> クラスの仲の良い友だちとは、穏やかに接することができる。友だちにしつこく言われて言い返すことができなかったため込み、一気に爆発してしまうことがある。皮肉っぽく話すので友だちとも先生とも会話が続かない。
	<p>「本人・保護者の願い」</p> <p>本人：テストでB以上が取れるようになりたい。保護者：物にあたらず、うまくコミュニケーションをとれるようになってほしい。集中して勉強ができるようになる。高校に進学してほしい。</p>

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> 課題は時間がかかるが最後までやり遂げることができる。 消極的な発言を繰り返す。 自立活動では、好きなアニメを題材にすると積極的に活動や発表をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちにしつこく言われ、言い返すことができなかったため込み。 ノーチャイムでも時間を意識して行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が隣に座って細かく指示をださないと活動が止まっていることが多い。 忘れ物が多く、整理整頓が苦手なためプリントをなくす。 	<ul style="list-style-type: none"> 疲れたと言って姿勢を保持できない。 長時間、石を削る作業ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲の良い友だちに対しては穏やかに接することができる。 皮肉っぽく話すので会話が続かない。

1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> 適切な言葉を使い会話をすることができる。 活動の見通しを持ち、課題ができたかをチェックしながら取り組むことができる。
--------------	---

短期目標（2学期）	<ul style="list-style-type: none"> 1つのものを多面的に説明することができる。 プリントで課題を確認し、見通しをもって最後までやり遂げる。
-----------	--

具体的な指導内容（指導場面）	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい言葉を多面的にとらえ、表現し、相手に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明や表現の語彙を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持ち、項目ごとに課題を持って取り組む。
目標達成に向けた合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> どのような伝え方がわかりやすいのか理解できるように、聞き手としての活動も設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙をイメージできるように、イラストや写真などを用いた学習を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に理解しやすいようにめあてを掲示する。課題の確認と達成をチェックできるようにプリントを用意する。
関連する自立活動の区分	(心) (1) (コ) (2) (環) (1)	コ (2)	(心) (2) (環) (2)
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話に集中し、その場に適した会話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の表現を増やし、適切な言葉を選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体となって学習を進め、集中して活動を行うことができる。

自立活動学習指導案

学 年：第1学年

指導場所：知的障がい学級

指導形態：グループ学習

1. 主題（題材等）

- ・近況報告・交流会

2. 本時の目標

- ・中学生になって頑張っていることを後輩に伝えよう。
- ・伝達ゲームの1分間で、多くの言葉を伝えられるようにしよう。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてと本日の活動の流れを説明する。 ・Web 会議システムで小学校とつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板にめあてと活動内容を提示する。 ・目標がもてるように、個人にあった課題を設定する。 	
展開	<p>はじまりの挨拶</p> <p>① 近況報告 中学生になって頑張っていることを、後輩にアプリを使用して報告する。</p> <p>② 伝達ゲーム お題の答え以外の言葉で相手に説明して答えを当ててもらおう。1分間で何個伝達できるか。各自、達成目標を設定させる。 (生徒A) 様々な言葉を使って説明する。 (生徒B) 相手の表情を見て、言葉で伝える。</p> <p>③ アプリで神経衰弱対決 ことわざとことわざの絵を合わせる。チームで協力してカードの場所を覚える。</p> <p>④ ツイスターゲーム プレーヤーは1人、スタートは好きな色の場所に両手足を置いてから始める。部位のサイコロと色のサイコロを振り、その指示に従い、手足の置く場所を考え、手のひらと足の裏以外がつかないように姿勢を保つ。</p> <p>終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・司会・進行を中学生が行う。 ・スムーズに進行できるように、アプリにデータをいれておく。 ・タブレットのミラーリングでスクリーンに映し出し、発表する。 ・チーム全員で伝達を行う。 ・お題を示す。 ・難しいお題はパスもできるようにする。 ・各自、達成目標を設定する。 ・画面共有で行う。 ・各チームで相談をする。 ・2分の時間制限で双方が耐えられたらクリアにする。 ・サイコロは小学校・中学校と順番に振る。 ・チームでプレーヤー、サイコロ、アドバイス役係と役割を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が準備した内容を落ち着いて伝えることができるか。 ○説明側は相手が理解できるように、言葉を選んで伝えることができるか。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り、気付いたことなどを文章で書けるように、声をかける。 	

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	知的障がい③	学年	中学校 第1学年
-------	--------	----	----------

実態把握等	<p>「障がいの状況等」</p> <p>知的障がい ※カテコラミン誘発多形成心室頻拍（息が上がるような激しい運動はできない）</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習中、集中力が切れたり、やる気がなくなったりすることがあるが、活動を小分けにするなどの支援を行えば、集中して取り組むことができる。 ・短期記憶に課題が見られるが、視覚情報と結び付けて学ぶと定着しやすい。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちに誘われて鬼ごっこなどの遊びに参加し、息が上がるまで走ってしまうこともあるが、事前に見通しを持たせると、自分の体調に応じた行動ができる。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手や場に応じた適切な言葉選びが苦手なため、友だちに対してからかうような言動になってしまい、トラブルになることがある。友だちと関わることや遊ぶことは好きである。 ・困っている人を助けようとする優しい一面がある。
	<p>「本人・保護者の願い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級でも集中して授業を受け、友だちとも上手く付き合えること。

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・夢中になると、息が上がっても運動を続けることがある。	・スポーツをしたい気持ちはあるが、できないことに対する葛藤がある。	・教員などの大人や友だちに対しても積極的に関わることができる。	・集中力が持続しないことがある。	・激しい運動を制限されている。	・からかうような言葉がけをし、トラブルになることがある。 ・自分の考えや思いを言葉にして伝えることが難しい。

1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・同級生と適切にコミュニケーションを取ることができる。 ・運動を伴う遊びに誘われたとき、理由を説明して、運動を伴わない遊びを見つけることができる。 ・活動に見通しを持ち、集中して取り組むことができる。
--------------	--

短期目標 (1学期)	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の中で、ゲームやプレゼンテーションに取り組み、友だちに適切に伝える方法を身に付ける。 ・授業に参加する前後やその途中に、自分の体の状態や体調を言葉にして教員に伝えることができる。
---------------	---

具体的な指導内容 (指導場面)	・状況を的確に理解し、わかったことを言葉にして相手に伝える練習をする。	・身振り手振り、図・絵を用いるなど、様々なコミュニケーションの取り方と説明の方法を学ぶ。	・運動強度や体調から、活動に参加可能か、またどのような工夫をすれば参加できるようになるかを考える。 ・自己の体調などを自分の言葉で説明する。
目標達成に向けた合理的配慮	・1回目の伝達後にふり返りを行い、教員がモデルを示して伝え方を修正し、2回目を行う。	・ICTを用いて画像や動画を活用し、伝えたい内容をイメージしやすくする。	・事前にどのような活動を行うか、視覚的なツールも活用しながら説明し、見通しが持てるようにする。
関連する自立活動の区分	(心) (2) (コ) (5)	(コ) (1) (5)	(健) (2) (4) (5) (心) (2)
めざす姿	・ゲームの際に、的確な指示を出すことができる。	・好きなものについて調べ、まとめた内容をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。	・活動に参加するかどうかを自分から伝えることができる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第1学年

指導場所：知的障がい学級

指導形態：グループ学習

1. 主題（題材等）

- ・自分の好きなもの（こと）についてプレゼンテーションしよう

2. 本時の目標

- ・ゆっくりはっきりと話しながら、身振り（説明している図を指し示すなど）を用いてプレゼンテーションすることができる。
- ・状況や場面に応じて、自分の意図を的確に言葉で説明して伝えることができる。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・教員と体調の確認を行う。 ・ペアになり、1人が絵（図）を見て言葉で説明して伝える。もう1人は、伝えられた絵（図）を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調について質問する。 ・2回行うことを伝える。 ・1回めと2回めの間に教員がデモンストレーションを行い、伝え方の見本を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わるように言葉選びを工夫することができる。（行動観察）
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてとプレゼンテーションのテーマの確認をする。 【めあて】 わかりやすく相手に伝えよう 【テーマ】 自分の好きなもの（こと） ・プレゼンテーションに使うタブレットの準備（タブレットを起動し、発表用のスライドを開く）をする。 ・台本を読む練習をする。 ・1人ずつプレゼンテーションを行う。 ・発表を聞く方は3つの観点について、それぞれで相手のプレゼンテーションを3段階で評価し、ワークシートに記入する。 ・相手のプレゼンテーションの内容について質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを板書する。 ・伝える際のポイントを黒板に提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価する点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ゆっくりはっきり 2. 大きな声で 3. 動作を付ける </div> <ul style="list-style-type: none"> ・途中で詰まった場合などは、励ましの声をかける。場合によってはやり直しをするよう提案する。 ・プレゼンテーション中は、画面を見ながら、身振り手振りを使って説明するよう促す。 ・生徒から質問が出ないときは、質問項目が例示されたカードを渡す。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・相手の発表をよく聞き、終わった後に拍手することができる。（行動観察） ・身振り手振りを交えて発表することができる。（行動観察） ・積極的に質問することができる。（行動観察・学習プリント等）
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のプレゼンテーションについて、ワークシートをもとに3つの観点について点数を付ける。 ・相手のプレゼンテーションの良かったところや、修正すればもっと良くなるポイントについて伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価することが難しい場合は、撮影していたプレゼンテーションの動画を見るように促す。 ・言葉にして伝えることが難しい場合は、伝えたい部分が穴抜けになっている台本を渡し、考えるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝えることができる。（行動観察・学習プリント等）

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	肢体不自由①	学年	中学校 第1学年
-------	--------	----	----------

実態把握等	<p>「障がいの状況等」 脊髄髄膜溜 脊椎後弯症 体幹機能障害 先天性水頭症 アーノルドキアリ奇形 先天性脊髄変形 両側先天性足関節変形 聴覚過敏 身体障害者手帳1級 療育手帳A 導尿が必要</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなは読み書きができ、カタカナは読みができる。漢字は、関わりが多い教員の名前を読むことができる。 ・数字は、3までのタイルを置いたり、数えたりできる。1～20まで書くことができるが、1+1などの概念の理解は難しい。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バギーを使用して移動している。生活面全般に介助が必要である。 ・排泄は自発ではなく、看護師が導尿を行っている。 ・食事は、時間はかかるが、支援者が食材をはさみでカットし、介助することで、自分でスプーンを使って食べることができる。 ・音に過敏なため、多くの人が並んでいる場所や、音楽やマイクの音を好まない。 ・教室や体育館に入りたくないときは、わざと吐いたり大声を出したりすることがある。 ・入学当初は登校を嫌がり自傷行為が見られたが、4月後半から給食後に下校したり、通常の学級の授業に参加する時間を調整したり、「今日」や「今週」の予定を伝えたりすることで、中学校生活に少しずつ慣れてきている。 ・足の骨折をしやすいため、特に注意が必要である。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人に話をするのが大好きで、よく話をする。 ・自分の伝えたいことを言うことに夢中で、相手が話しかけても答えずに話し続けることもある。 ・教員の名前を覚えるのが早く、どの教員にも元気よくあいさつできる。 ・自分に注意を向けたいときなどに、友だちや教員など近くにいる人の髪の毛をひっぱることがある。
	<p>「本人・保護者の願い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできること（歯磨きなどの身辺自立）を増やしてほしい。・中学校で友だちと関わりながら楽しく過ごしてほしい。

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・導尿による排泄。 ・全面介助が必要。 ・水頭症のため、シャント手術をしていることへの配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・嫌なことがあるとわざと吐いたり大声を出したりする。 ・ストレスがたまると、自傷行為が出る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関わる時間が多い教員や生徒のことをよく覚えている。 ・あいさつが元氣よくできる。 ・相手の気持ちを理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚過敏 ・人が多い場所が苦手。 ・時間を調整することにより、参加できることが増えている。 ・「今日」「今週」等、時系列の理解が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動の際、バギーを使用。 ・食事は細かく食材をカットすれば自分で食べることができる。 ・マット上では、腕や足を使いながら腹ばいで前進ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一方的な傾向はあるが、人と話すことが好き。

1年後をみすえた 長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カードなど薄いものをつまむことができる。シールを台紙からはがし、はるることができる。 ・通常の学級で、安心してクラスの仲間と活動する時間を増やしていく。 ・日常生活において自分でできることを増やしていく。
------------------	---

短期目標 (2学期)	<ul style="list-style-type: none"> ・カードなど薄いものをつまむことができる。 ・友だちカードを使って、班(クラス)の友だちの顔と名前を覚え、話をするができる。 ・自分でスプーンを使って、食事する時間を増やしていく。
---------------	--

具体的な指導内容 (指導場面)	基本動作の学習	班(クラス)の仲間を知る	班(クラス)の友だちへインタビューを行う
	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー作り(日付シールを貼る) ・身体をほぐす。 ・友だちカード(腕を伸ばす、カードをつまむ)を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちカードを使って顔と名前を覚える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日」や「今週」で楽しかったことを質問する。
目標達成に向けた合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学習の時間に、手の操作(腕、肩、肘、指の動作、握る、つまむ)が必要な場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回での実施時間を設定し、週の帯学習として行う。 ・一致できたときには、たくさん褒め、写真にシールを貼るなどして成果を視覚化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し練習することで、パターン化できるようにする。 ・インタビューの流れを視覚化し、イメージを持ちやすくする。 ・ロールプレイを取り入れる。
関連する自立活動の区分	(身)(3)(5) (環)(1)(3)	(心)(1) (人)(1) (環)(4)(5)	(人)(1)(4) (コ)(1)(3)(4)
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でスプーンを使って食事する時間を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級で過ごす時間を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞いて、質問に答えることができる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第1学年

指導場所：肢体不自由学級

指導形態：個別学習

1. 主題（題材等）

- ・クラスの仲間にインタビューをしよう。

2. 本時の目標

- ・「今日」と「今週」がカレンダーでわかる。
- ・決められた回数で、手を強く握ることができる。
- ・腕を伸ばす、カードをつかむ、箱に入れる動作を繰り返ししようとする。
- ・ロールプレイを通して教員にインタビューができる。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。 ・「今日」の日付と曜日を確認する。 ・本時の流れを確認する。 ・「今日」「今週」の日付をカレンダーで確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数字と学習内容を書いたカードを自分で選び、ホワイトボードに貼り付けられるよう、カードにマグネットを付けておく。 ・前回自分で日付シールを貼って作成したカレンダーを準備し、学習意欲につなげる。 ・その週の月曜日から金曜日がかかるように、色を付けて強調する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「月」「日」の数字を見て正しく選ぶことができる。 ・「今日」「今週」がカレンダーのどこにあるのか示すことができる。
展開	<p>①体をほぐす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手をつないで数をかぞえて「3」「$1+1=2$（1と1を合わせて2）」など決めた数のときに、その回数分「ぎゅっ」と手を強く握る。（教員→本人、本人→教員） ・腕を「ぎゅっ」とつかんでマッサージ効果で身体をほぐす。 <p>②クラスの友だちカード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（顔写真カード）を使い、「名前あてクイズ」をする。 ・指示された友だちの顔写真カードを選んで、名前を言う。 ・指定された箱へカードを入れる。 <p>・インタビューをする班の仲間を確認し、質問をする練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身体をほぐすことで安心感とリラックスした気持ちで次の活動に取り組めるようにする。 ・クラスの友だちの顔写真と名前カードを準備する。 ・腕を伸ばしたり、つかんだりできるようにカードの並べ方を工夫する。 ・教員が見本を示し、質問の表現を繰り返し練習させる。 ・質問の仕方（場面に応じた声のかけ方など）についても、手順を視覚的に提示する。 ・質問される側の練習もする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決めた数とその回数が一致できるようにする。 ・「ぎゅっ」と強く握ることができる。 ・腕を伸ばす、カードをつかむ、箱に入れるという一連の動作を、繰り返しできる。 ・必要な情報（聞く相手の名前と質問内容）を声に出して伝えることができる。 ・相手の顔を見て質問できる。 ・相手の話を聞くことができる。 ・質問に答えることができる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容をふり返る。 ・①出席番号、②名前、③学習の達成度を記入する。 ・ふり返りシートをファイルにとじる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に対する達成度を自己選択できるふり返りシートに示していく。 	

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	肢体不自由②	学年	中学校 第2学年
-------	--------	----	----------

実態把握等	<p>《障がいの状況等》</p> <p>脳性まひ（アテトーゼ型） 未熟児網膜症（手帳：身体障害者手帳1級）</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンを持つことができ、筆圧は強い。文字を書くことは体力の消耗が激しく、字形のバランスをとりにくい。 ・書くことには時間がかかるが、授業の理解はよくできている。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄は便座に身体を支えるバーと部分介助があれば1人で座ってできる。排泄時間も定まっており定時排泄が可能。 ・食事は、器を持つ腕を支える、食べ物を寄せ集める等の部分介助があれば、トレーニング用のお箸を使い1人でできる。 ・自走の車椅子を活用して校内を移動している。教室内での移動は一人でできるが、段差がある場合は支援が必要。階段を上る際は昇降機を使用している。 ・週に1度、リハビリテーションのため病院へ通っている。 ・体温調節が難しい。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めての環境には緊張しがちであり、集団に積極的に関わるのは苦手だが、声掛けがあれば行動できる。 ・慣れている人に対しては口調がきつくなる。興奮すると相手のことを考えずに攻撃的な言葉を放つこともある。 ・サポートされたとき、感謝の気持ちを伝えるのが苦手。介助の要求ができず待っているときがある。
	<p>《本人・保護者の願い》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできること、できないことを判断し、できないことは手伝ってほしいと伝えられるようになってほしい。 ・同級生との時間をできる限り作り、クラスメイトからの援助の機会を増やし、関係性を大切にしてほしい。



自立活動の区分に即して実態把握の整理					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・体温調節が難しいため、夏は水分補給の頻度を高め、熱を身体に溜めないようにする。冬は暖をとるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての環境には不安になり身体が緊張して思うように動かせなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な集団参加の姿勢は見られない。 ・声かけがあれば、活動に参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電動車椅子を操作し、校内を移動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動のための電動車椅子の活用及び手先の動き等に関する動作の学習を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れている人に対しては口調がきつくなる。 ・自ら介助の要求ができず、気づかれるのを待っている。



1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることとできないことを理解し、援助が必要なときは適切なことばで周りに伝えることができる。 ・電動車椅子をより安全に操作することができる。
--------------	---

短期目標（1学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・電動車椅子の運転技能を高める（前後の動き・小回り等）。 ・校内の移動で困ったときに、周囲にサポートを依頼することができる。
-----------	---

具体的な指導内容（指導場面）	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でできることとできないことを確認し、自分の障がいの状況を知る。 ・どのような支援があれば、できるか考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートを依頼する場面を設定し、場面に即したSSTを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視野を十分に確保し、周囲の安全を確認しながら、電動車椅子の運転技能を高める。（前後の動き、小回り等）
目標達成に向けた合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な支援のヒントを準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1対1で対応し、具体的な場面を設定し、イメージを持ちやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性の確保しながら進める。
関連する自立活動の区分	(健) (2) (3) (4) (環) (3) (身) (2) (3)	(心) (3) (人) (1) (3) (4) (コ) (4) (5)	(環) (3) (4) (身) (1) (2) (3) (5)
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・支援があればできることが増えることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介助者にサポートを依頼する方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電動車椅子の細かい操作ができる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第2学年

指導場所：肢体不自由学級

指導形態：個別学習

1. 主題（題材等）

- ・電動車椅子の使い方
- ・他者への依頼の仕方

2. 本時の目標

- ・電動車椅子を操作し、細かい操作をスムーズに行うことができる。
- ・SSTを通し、自分も相手も気持ちがい依頼の仕方を考えようとする。



3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする ・本時の流れを知る 		
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・「お願いするとき」のワークシートを読む。 ・いろいろな言い方で言う。相手によって使い分ける <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ①見せてほしい ②返してほしい ③やめてほしい ④助けてほしい ⑤教えてほしい </div> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張した身体をほぐすためにストレッチを行う。 ・電動車椅子の細かい操作の練習をする。目標である印にそって行う（右折・左折・前後の動き・方向転換・定位置への停車）。 ・教員とロールプレイを行う。電動車椅子を操作して移動する。支援が必要なところで、依頼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お願いするとき、いろいろな言い方があることを伝える ・相手によって使いわけ、だれが聞いても感じがいい言い方や、相手によって受け取り方が違うことを考えるように提案する。 ・身体の動きを見守り、安全に留意する。 ・転倒等を防ぐため、安全に操作できているかに留意する。 ・日常で想定される場面を設定する。（例 教室で・廊下で・街中で） ・転倒等を防ぐため、安全確保に留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼するときの伝え方を挙げるができる。 ・視野を十分に確保し、目標とする操作ができる。 ・周囲の安全を確認して、電動車椅子を操作できる。 ・状況に応じて適切な言い方で支援を依頼できている。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりをする。できたこととできなかったことを確認する。 ・挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できたことをほめる。 ・自分で声をかけることの大切さに気付けるようにする。 ・今後、車椅子での生活上で意識して活動していく大切さを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組んだことを振り返り、実際に意欲的に活かそうとする。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	病弱・身体虚弱①（校内の支援学級）	学年	中学校 第2学年
-------	-------------------	----	----------

実態把握等	«障がいの状況等» ・ダウン症 環軸椎不安定症 ・体温調節機能が低く、気温がそれほど低くない日でも寒さを訴え、その際に血色がひどく悪くなっていることがある。冬は手指が紫色になってしまうこともある。エアコン等による室内の温度調節を要する。 ・夏の暑い時には体温が高くなることもあるので、体育の授業前後には、ミストシャワーを浴びる必要がある。冬はストーブで身体を温めてから運動を行う。 ・あまり体力がなく、激しい運動は難しいが、体を動かすことは好き。 【学習面】 ・理解している物事や言葉が少ない。 ・文章の読解は難しいが、ひらがなや簡単な漢字を読むことができる。 ・興味や自信がない学習活動には消極的だが、好きな学習活動は自ら繰り返し行う。 【生活面】 ・時間や予定を意識して自発的に行動することができる。 ・用意された衣服に更衣することができる。 ・ルーティンの変更を好まず、思い通りにならないことがあるとその場で黙り込んで動かなくなる。 【社会性・コミュニケーション面】 ・人と関わることは好き。質問されて答える内容が長くなるときは「秘密」と言って答えを返さないことがある。 ・自分にとって都合の悪いことをする相手に「嫌い」等の言葉を使うことがある。
	«本人・保護者の願い» ・健康に過ごす。そのためのスキルを身に付ける。



自立活動の区分に即して実態把握の整理					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・体温調節機能が低く、気温がそれほど低くない日でも寒さを訴え、その際に血色がひどく悪くなっていることがある。	・興味や自信がない学習活動には消極的である。 ・ルーティンの変更を好まず、思い通りにならないことがあるとその場で黙り込んで動かなくなる。	・人と関わることは好き。	・理解している物事や言葉が少ない。 ・文章の読解は難しいが、ひらがなや簡単な漢字を読むことができる。	・あまり体力がなく、激しい運動は難しい。	・自分にとって都合の悪いことをする相手に「嫌い」等の言葉をつかうことがある。



1年後をみすえた長期目標	・寒さを感じた時に、状況に応じた防寒具を自分で着用できるようになる。
--------------	------------------------------------

短期目標（2学期）	・防寒具の種類と用途を知る。
-----------	----------------

具体的な指導内容（指導場面）	・ゲームを通して防寒具の種類と用途を知る。	・ルールを守ってゲームに参加する。	
目標達成に向けた合理的配慮	・イラスト付きのカードを使用する。	・約束事を視覚的に示す。	
関連する自立活動の区分	（健）（1） （心）（2）	人（4） コ（1）（5）	
めざす姿	・防寒具について知り、抵抗感をなくす。	・適切な振り舞いで他者との活動に参加できるようになる。	

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第2学年

指導場所：病弱・身体虚弱学級

指導形態：個別学習

1. 主題（題材等）

- ・あったかカルタ
- ・あったかさがし

2. 本時の目標

- ・防寒具の種類と用途を知り、使用することへの抵抗感を無くす。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい気持ちで授業が始められるよう、学習に参加しやすくなる声かけをする。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・カルタを机に並べる。 ・あったかカルタで遊ぶ。 教員が物の名前や温めたい場所など防寒具を連想させる言葉を言い、当てはまるイラストが描かれた札を取る。 「毛糸の帽子」「セーター」「手袋」「毛糸の靴下」「マフラー」「耳当て」「カイロ」など。 ・結果発表。 ・カルタを片付ける。 ・あったかさがし。 本人が好きなキャラクターのイラストから防寒具を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく一人で準備ができる方法を分かりやすく示す。手伝いが必要な時は声をかけるよう伝える。片付け時も同様に行う。 ・札を取れた時は大きく称賛し、やる気を引き出す。 ・読み上げ方にバリエーションを付け、飽きさせないようにする。（セリフ風に声を変えて言うなど） ・学習内容が定着してきたら、色違いの防寒具が描かれた札を用意するなどして発展させる。 ・自己肯定感が高まるように結果を肯定的に伝える。 ・イラストに対して教員が「かわいいね」「似合ってるね」など言うことで、防寒具への抵抗感をなくす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・札を取ることができるか。 ・ルールや発言に気を付けてゲームに参加できるか。 ・イラストから防寒具を見つけられることができるか。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り。 防寒具について知ることができたか、ゲームの約束を守れたかを振り返る。 ・あいさつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防寒具を身近に感じ、使用することに抵抗がなくなったかを会話から聞き出す。 ・たくさん札が取れたことやルールを守れたことなどに再度触れ、今後の意欲につなげる。 ・教員から評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防寒具を使ってみようという気持ちになれたか。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	病弱・身体虚弱②（校内の支援学級）	学年	中学校 第3学年
-------	-------------------	----	----------

実態把握等	<p>《障がいの状況等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心室中隔欠損症。身長に対して体重が軽く、心身の発達について経過観察中。 ・先天性両膝脱臼のため、過去に器具で固定を行った。走る時など身体のバランスをとることが困難で、身体動作に不自由がある。柔らかい動きが苦手である。また学習にも緩やかな遅れがみられる。 ・口の開きが小さく、はっきりと口を開かないと発音できない音等は聞き取りにくい。 ・音に敏感である・療育手帳 B2 取得。 ・体力を付けたいという意欲があり、様々な活動に積極的に取り組む。 <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作文など「書くこと」は苦手だが、小学校5年生までの漢字は読める。 ・文章問題は、読むことを諦めてしまう傾向があり、計算問題は、四則計算・文字式等の計算はできる。分数、小数点の問題も解くことができる。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同年齢と比べ体が細いが、食べる量が増えてきた。（補食として就寝前に夜食も取っている。） ・規則やルールをきっちり守れる。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声が小さく、会話が成立しづらいが、簡単なコミュニケーションをとることができる。 ・気持ちが沈んでいる時は関わりたがらないが、集団のなかで、笑顔で過ごすこともできる。 ・自分の思いを相手に伝えることに時間がかかるが、相手からの言葉のやりとりに応じることもある。
	<p>《本人・保護者の願い》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力を付けて、学校生活をしっかり送ってほしい。 ・3年生という進路を考える学年なので、自身の得意分野などをよく理解し、伸ばしていけるようにする。

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・体力を付けるため補食をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ないことや、悩むことに遭遇すると、体をゆすったり髪をかき乱したり、態度に現れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に学校では自分から周りに関わっていないこと。 ・教師に対しても、減多に自分から声をかけることはしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をきちんと守ることができ、準備などもよくできている。 ・その日の予定も自分で把握できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関節を柔らかく使う動きや、走る動作が苦手。 ・身体のバランスがとりにくい。 ・卓球が得意。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声が小さく聞き取りにくいいため、何度か聞き返すことがある。 ・調子が良いと笑って会話することもある。

1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活をみすえ、できることを増やし、周囲の友だちに興味を持つ。 ・自身の体調を把握し、学校の活動に体調に応じて参加する。 ・バランスの良い食事により、体力を付ける。
--------------	--

短期目標（1学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや運動をとおして、自分の気持ちを出表する。 ・バランスの良い献立の基本を理解する。
-----------	--

具体的な指導内容（指導場面）	<ul style="list-style-type: none"> ・食事について学ぶ。 ・栄養素について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品栄養素のグループを確認。 ・自分の体の調子を考えながら、好き嫌いではなく、必要な栄養量になるように、献立を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームをする。（カードゲームや卓球） ・ゲームをとおして、感じたことを言葉にして伝える。
目標達成に向けた合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調面の配慮。
関連する自立活動の区分	(健)(2)(4)	(健)(2)(5) (環)(4)	(心)(1) (人)(1)(3) (身)(1) (コ)(1)(2)
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事について意欲的に調べている。 ・自分の身体のことを考え、主体的に活動し、栄養素を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム中に感じる自身の感情を言葉にして表出することができる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第3学年

指導場所：病弱・身体虚弱学級

指導形態：個別学習

1. 主題（題材等）

- ・「自分に合った献立を考えよう！！」

2. 本時の目標

- ・自分に合ったバランスの良い、夕食の献立を工夫して考えることができる。
- ・栄養素の種類と働きをふまえた献立について説明することができる。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりのあいさつをする。 ・前時までのおさらいをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の開始を意識づける。 ・活動の見通しをもつことができるよう、時間の流れを提示する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・夕食の食事の品数を決める。 ・タブレット PC を起動し、検索画面を開く。 ・食品栄養素の表を見て、使いたい食材を選ぶ。 ・選んだ食材を使った料理を考える(調べる)。 ・決まった献立を、絵で表現し、選んだ理由を書いてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を参考にし、考えてみることを伝える。 ・検索する言葉をいくつか提案する。 ・好き嫌いだけでなく、栄養素を考えて、さまざまな食材を使うことを伝える。 ・プレゼンを行うときに示しやすいような掲示資料となるように意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合ったバランスの良い献立を工夫して考える。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスをふまえた献立についてプレゼンをする。 ・タブレット PC を使い描いた掲示資料を撮影し、保存する。 ・ふりかえりをする。 ・終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ理由もしっかり伝えるよう声かけをする。 ・普段の食事をふりかえり、自身の身体のために食事のことを考えられるように声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と働きをふまえた献立について説明できる。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	病弱・身体虚弱③	学年	中学校 第2学年
-------	----------	----	----------

実態把握等	<p>「障がいの状況等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蘇生後虚血性低酸素脳症(生後2か月)、胃ろう、車いす移動 ・けいれん発作が起こった場合は、座薬挿入、緊急搬送等が必要。てんかん発作あり、薬(デパケン)服用(朝晩)、 ・身体障害者手帳1級(脳原性上肢・移動障害)、療育手帳A ・脳原性障害により四肢に運動障害があり、言語でのコミュニケーションが困難。 <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌や手遊びが好きで相手に応じて違う遊びを催促することができる。 ・絵本や教科書を見てページをめくり、読んでほしいところを指さしと短い言葉で伝えることができる。 ・型はめやひも通しなど、手先を使った作業ができる。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全介助　・排泄時は指さして伝える事ができる　・食事は胃ろうからの経管栄養(H30年2月から) ・午前と午後に水分補給(経管注入)　・給食の経口摂取の試み　・体温調節に支援を要する <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちが好きで、自分から関わることができる。 ・誰とでもハイタッチ等であいさつし、手をつないだりする。
	<p>「本人・保護者の願い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちに囲まれ、にぎやかな場所で楽しい3年間を過ごしてほしい。 ・進路は支援学校進学を希望。 ・支援学校卒業後、本人が楽しく仕事ができる環境を見つきたい。(パン屋さんやケーキ屋さんなど)

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱による体温調整を自分で行ったり、暑い寒い等を伝えたりするのは難しいが、水分がほしいときは周囲の大人を呼ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌や手遊びが好きで、気持ちを安定させることができる。相手に応じて違う遊びを催促する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に活動することが好きである。 ・周囲の誘いや声かけて、嬉しそうなる表情をすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意を維持することが難しく、注目する対象が変動しやすい。 ・距離感を含む空間把握が苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行器を使うと歩き出すが、スピードの調節が難しい。歩行や姿勢保持が課題。 ・適切な力の加減が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちが好きで、自分から関わることができる。 ・誰とでもハイタッチ等であいさつし、手をつないだりする。

1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・立つ、歩くなど身体的能力の向上と強化。 ・手先を使った活動を通して、興味・関心のあることを増やす。 ・友だちへ自分の意志であいさつや関わりを持つ行動が取れるようになる。 ・習得した単語で意思を伝えられるようになる。
--------------	---

短期目標(1学期)	<ul style="list-style-type: none"> ・1日に1回は立つ・歩くなどの身体的活動に取り組むことができる。 ・手先の動きを伴う学習ですぐに諦めたりせず、集中力を持続できる。 ・支援学級に来る生徒や先生に積極的にあいさつができる。 ・言いたいことを単語の形で伝えようとする。
-----------	--

具体的な指導内容(指導場面)	言語活動 ・ひらがな、絵カードや絵本などを用いて言葉を増やし、コミュニケーション能力の向上をめざす。	感覚的活動 ・パズルやボールなどを使って手先の巧緻性の向上をめざす。	身体的活動 ・歩行器を使った歩行練習や立位台を使って立つ練習などを日常的に行っていく
目標達成に向けた合理的配慮	・間違ってもいいので何か発声・発語するよう絵カードなどで選択肢を示す。	・左半身に麻痺が残っているため、右側の動きを中心として取り組める課題設定をする。	・立ったり、歩いたりする直前の授業内でマッサージなど立つための準備運動をする。
関連する自立活動の区分	(人)(1) (コ)(1)(2)(3)	(心)(2) (環)(1)(2)	(健)(5) (身)(1)(2)
めざす姿	・自分の伝えたい事を簡単な短文で自発的に伝える。	・手先を使って物を持ったり、掴んだりを自発的に出来る。	・健康の維持と成長による体の動きを助ける。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第2学年

指導場所：病弱・身体虚弱学級

指導形態：個別学習

1. 主題（題材等）

- ・ひらがなカードで発声・発語訓練と文字の認識を高めよう

2. 本時の目標

- ・はっきりと発声・発語することができるようになる。
- ・文字の形と発音をリンクすることができるようになる。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始のあいさつをする。 ・これからの学習内容の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは「〇時間目の勉強をはじめま」まで教師が言って生徒は「す」と続けて言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が元気よく発声・発語できている。 
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・立位台で立つ練習を行う。 ・ひらがなカードをランダムに1枚ずつ提示し発声・発語する。  <ul style="list-style-type: none"> ・手先のトレーニングのため釣りをを行う。  <ul style="list-style-type: none"> ・示されたカードと同じ色のブロックを選び取る。  <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの動画で発声・発語をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢が真っすぐであるか確認し、開始5分後にもう一度ベルトを確認する。 ・生徒が何かしらの発声・発語をするまで待つ。 ・くり返し発声・発語の練習を行う。 ・目線の高さでカードを提示する。 ・難しそうであれば、裏面の絵が描かれた面を見せて、発声・発語を促す。 ・イライラすると竿を投げたり、対象物を握り潰したりするので、手の動きに注意する。 ・釣れたキャラクターを発声するよう促す。 ・色カードと同じ色のブロックのセットをはじめに提示し、復習してから始める。 ・再生速度をゆっくりにして、末尾の言葉だけでも発声・発語を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が元気よく発声・発語できている。 ・難しかったカードでもあきらめずに取り組む姿勢を見る。 ・対象物を見て、竿の微調整ができている。 ・生徒が発声・発語できている。 ・色を認識して選ぶ事が出来ている。 ・最後まで集中して取り組む事が出来ている。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の形が似たカードから指定された発音と同じカードを選ぶ。 ・授業終了のあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい場合は選択肢を減らしたり、場所を変えたりして試みる。 ・「〇時間目の勉強を終わります」まで教師が言って生徒は「す」と続けて言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを見て、しっかりと選んでいる。 ・生徒が元気よく発声・発語できている。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	自閉症・情緒障がい①	学年	中学校 第1学年
-------	------------	----	----------

実態把握等	«障がいの状況等» ・自閉スペクトラム症 ・療育手帳 B2 【学習面】 ・出された課題に対しては、まじめに取り組むことができる。 ・わからないことは、「わかりません」と伝えることができる。 ・漢字を覚えることが苦手で、毎時間の漢字テストで合格点が取れないと悔しくて泣くことがある。 【生活面】 ・新しいことや新しい場所には不安が大きいが、見通しが立てば安心して取り組むことができる。 ・大きな音や声が苦手である。 ・急な予定変更があるときは、きちんと説明しないとパニックになることがある。 【社会性・コミュニケーション面】 ・伝えたいことを、うまく言葉にして伝えることが苦手である。 ・聞かれた質問の意味が分からず、的外れな返事をしてしまうことがある。 ・こだわりが強い。
	«本人・保護者の願い» ・本人：高校生になりたい。 ・保護者：将来、サポートを受けながらも就労して自立した生活を送れるようになってほしい。



自立活動の区分に即して実態把握の整理					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・急な予定の変更が苦手で、パニックになることもある。	・支援学級の友だちに前向きな声かけができる。	・授業中、個別で声かけしないと作業できないことが多い。	・細かい作業や操作が苦手である。	・相手の気持ちを考えず、思ったことをそのまま伝えてしまうことがある。



1年後をみすえた長期目標	・わからないことがあれば、先生に伝え解決しようとする。 ・他者と一緒に関わり合いながら活動に参加しようとする。
--------------	--

短期目標（2学期）	主題（単元）の活動において ・わからないことや困ったことがあれば、先生に伝えようとする。 ・自分の役割を理解し、行動しようとする。 ・相手を見て話を聞く。
-----------	--

具体的な指導内容（指導場面）	・わからないことや困ったことがあれば先生に伝え、どのように対応するか、具体的な方法を考える。	・卓球の練習で、台を準備する人、ネットを準備する人をじゃんけんで決める。	・教室の前で先生が話を始めたら、体を向けて話を聞く姿勢をつくる。
目標達成に向けた合理的配慮	・わからないことや困ったことがあれば先生に伝えるように声かけする。	・役割分担を明確に示す。	・合図をして、話をする人の方を向くように促す。
関連する自立活動の区分	(コ) (3) (5)	(人) (2) (3) (環) (4)	(人) (1) (環) (4)
めざす姿	・問題を解決する方法を知り具体的な行動ができる。	・自分の役割を果たし、役に立つ達成感を知る。	・相手を見て話を聞くことができる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第1学年

指導場所：自閉症・情緒障がい学級

指導形態：グループ学習

1. 主題（題材等）

- ・カレンダーをつくろう！

2. 本時の目標

- ・自分の役割を理解し、行動しようとする。
- ・見本を参考にしながら、カレンダーを作成する。
- ・友だちの作品を見て、称賛の言葉をかけることができる。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめの挨拶をする。 ・本時の学習内容を知る。 ・前回見た「かさじぞう」を思い出し、カレンダーづくりにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の開始を意識づける。 ・一人ひとりが活動の見通しを持つことができるよう提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員を見て、話を聞いている。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーをつくる手順を知る。 ①おじぞうさんの顔を書き、台紙に貼っていく。 ②綿棒を使って、台紙に雪を描く。 ③スタンプを押す。 ・カレンダーづくりに必要な道具を用意する。 ・カレンダーを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した見本を見せ、生徒が見通しを持つことで安心して作業に取り組むことができるようにする。 ・一人ひとりに役割を与える。あらかじめ道具がたりないようにしておく。本人が困る場面を意図的につくる。たりないものがあれば教員に伝えるよう声かけする。 ・まじめに取り組んでいる場合は声かけし、認める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を理解し、行動しようとしている。 ・たりない道具を教員に伝えようとしている。 ・出された課題に対して、まじめに取り組むことができる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・完成したカレンダーをお互いに見せ合い、感想を伝える。 ・おわりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が友だちの作品をほめる模範を示してから、生徒が感想を伝えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品を見て、称賛の言葉をかけることができる。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	自閉症・情緒障がい②	学年	中学校 第3学年
-------	------------	----	----------

実態把握等	<p>「障がいの状況等」</p> <p>衝動的で多動である。療育手帳なし。</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑音があると注意が散漫になるが、個別学習には集中して取り組むことができる。 ・見通しがつくと、落ち着いて課題に取り組むことができる。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・納得できないことがあると作業を止めてしまい、再び始めることに時間がかかる。 ・役割を与えられると、熱心に取り組むことができる。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の気持ちを想像することが苦手で一方向的に話すため、友だちとトラブルになることが多い。 ・年下に対しては優しく接することができる。
	<p>「本人・保護者の願い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとのトラブルを減らし、中学校生活を楽しまたい。 ・相手の気持ちを考えて行動することができるようになってほしい。



自立活動の区分に即して実態把握の整理					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に対して、見通しを持つことができれば、落ち着いて行動できる。 ・自分のこだわりが満たされると、物事に前向きに取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にルールを共有すると、集団活動に積極的に参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化がなければ、習得したことを今後の活動に生かすことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・発言の内容を前もって指導しておけば、前向きな声かけをすることができる。



1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・周りのペースに合わせて行動することができる。 ・他者と一緒に関わり合いながら活動できるようになる。 ・卒業後、社会に適応し生き抜いていけるコミュニケーション力を付ける。
--------------	---

短期目標（1学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団の活動において、相手の気持ちを考えて発言しようとする。 ・小集団の活動において、ルールを守って行動しようとする。
-----------	---

具体的な指導内容（指導場面）	<ul style="list-style-type: none"> ・グループのリーダーとして活動の見通しを持ち、周囲に声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループのルールを設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に対してプラスの言葉かけを意識する。
目標達成に向けた合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動においてリーダーの役割を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守れるようにルール設定に関わらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションが円滑に進むような小集団で取り組ませる。
関連する自立活動の区分	(人) (2) (4)	(心) (2) (環) (4)	(コ) (5)
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとして責任を持ち役割を果たすことで自分の行動を振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを理解し、守ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えて言葉を選ぶことができる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第3学年（全学年）

指導場所：体育館

指導形態：グループ学習

1. 主題（題材等）

- ・ルールを守って、スポーツを楽しもう。

2. 本時の目標

- ・時間やルールを守り、スポーツに取り組むことができる。
- ・自分の役割に責任を持ち、協力して、楽しい雰囲気での活動ができる。
- ・相手の気持ちを考え、リーダーとしての声かけができる。



3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの種類、活動内容、時間配分、活動中のルールをメンバーと確認する。 ・各自、活動中の個人目標「最後まで、あきらめない」などを、それぞれ発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーは1年間を通して、3年生中心に、交替で回していく。 ・事前指導としてリーダー・サブリーダー(タイムキーパー役)と一緒に、活動内容とルールを決めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー：活動の見通しを持つことができる。
	<p>【ルール設定の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーが得点を得たときに、「ナイス！」などの声かけができた場合には加点する。 ・メンバーが失敗をした時や勝負に負けたときに、「ドンマイ！」などの声かけをする。（失敗した時に、ミスを責めたら減点。） ・相手チームか自チームの得点かわからないときは、「次のゲームをしよう！」などと声かけをする。 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・準備から後片付けまでの指示を出し、活動を進める。 《バドミントンダブルス》 ・道具準備、準備体操 ・ラリー練習 約10分 ・休憩（水分補給） ・試合形式 約20分 ・後片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子をよく見て、必要に応じて、リーダーやサブリーダーをサポートする。 ・危険な行動があれば、すぐに指導するが、できるだけ自分たちだけで、トラブルの解決ができるように見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを中心に、周りとの協力して、活動をすすめることができる。 ・活動中のルールを守り、プラスの言葉かけや気持ちの切り替えができる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人目標が達成できたか振り返る。 ・リーダーやサブリーダーのリーダーシップや、メンバーの協力などについてお互いに振り返り、評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーやサブリーダーの頑張り、メンバーの協力をほめる。 ・上手いかなかったことがあれば、改善点をアドバイスする。 ・次回のリーダー、サブリーダーを決めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールをしっかり守って、協力して活動できたかどうか、きちんと振り返ることができる。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	自閉・情緒障がい学級③	学年	中学校 第3学年
-------	-------------	----	----------

実態把握等	«障がいの状況等» 自閉スペクトラム症 ・手帳なし 【学習面】 ・語彙力や文章理解力、または話す・聞く領域の力に課題があり、自分の感情を相手に伝えるために言葉をうまく表出することが難しい。 【生活面】 ・友だちと楽しく会話や遊びを共有することはできている。身辺自立もほぼできている。当番活動等、役割は十分に果たすことができている。 【社会性・コミュニケーション面】 ・自分の考えに固執するあまり、言葉の捉え違いが生じてしまい、他者と認知が異なることに気がつかないことがある。他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しい。感情を抑えきれず、パニックになることがあるが、時間が経つと、自身の行動を振り返ることができる。
	«本人・保護者の願い» ・周囲の友だちと仲良く関わりたい。



自立活動の区分に即して実態把握の整理					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> 自分が捉えた意図が他者の意図と異なることが暴力行為等の誘因の一つとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しい。 自己の行動や感情を調整したり、他者に対して主体的に働きかけたりすることに関して、生活環境を整える力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の言動の意図をイメージしたり、推論したりすること等の認知の手掛かりを得られにくい。 		<ul style="list-style-type: none"> 友だちと楽しく会話することができる。 自分が思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を使うことがある。



1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の人の意図を理解した上で行動したり、意図を確認したりすることができる。 感情が昂った際に、怒りをコントロールできるようになる。
--------------	--

短期目標（1学期）	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイライラを数値化できる。 イライラした時の対処法を考えることができる。
-----------	---

具体的な指導内容（指導場面）	<ul style="list-style-type: none"> イライラするのは、他者の考えの推測が苦手なことが原因の1つである。見方や感じ方が人によって異なることに気づくため、言葉遊びの学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の様々な場面で起こるであろう場面を想定し、その時の気持ちを考える学習にとりくむ。実際に起こった場合には、どのように伝えればよいかをロールプレイを通し、体験していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 怒りの感情とうまく付き合う方法を得るために、自分がどんなときに怒るのかリストアップし、怒りを数値化やスケールリングすることを通して、その際にとるべき行動について考え、実践する。
目標達成に向けた合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> 問題数を明らかにしておく。 会話での問題提示では捉えにくいいため、プリントや黒板等で視覚的に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵やPCを用いることで実際の場面を想定しやすくする。また感情を表現しやすいように感情カードやポスターを準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例をいくつか用意しておく。（過去の事例も含む） 書き込みやすいように枠線を入れたプリント等を準備する。
関連する自立活動の区分	(人) (3) (コ) (3)	(健) (1) (人) (3) (環) (4) (コ) (1) (3)	(心) (1) (人) (3) (身) (5) (コ) (5)
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の捉え方が一つではないことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の感情や意図を理解し、自分の言動に関して適切な表現ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感情の起伏の仕方に気づき、対応する術を身に付ける。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第3学年

指導場所：自閉症・情緒障がい学級

指導形態：グループ学習

1. 主題（題材等）

- ・怒りの数値化をしよう。

2. 本時の目標

- ・怒りがわいた（イライラする）場面を思い浮かべ、怒りを数値化する活動を通して、実際の場面で活用できるよう対処方法を考えることができる。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・イライラする場面を想像して答える。 ・今日のめあてを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後の参考となるように、できるだけたくさん意見を出しておく。 	
展開	<めあて>怒り（イライラ）を数字にし、怒りとの付き合い方を考えよう。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイライラする場面をプリントに書き出す。 ・書き出した内容を数値化する。 ・怒りがわいたときに、感情を鎮める方法について意見を出し合う。 ・書き出したイライラする場面に、どの方法が有効かを表に書き込んでいく。 ・実際に各自が一つの場面を想定してロールプレイを教員と行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつか共通のものを先に記載しておく。 ・100をMAX（最大）、0をMIN（最小）とし、怒り具合を数値化する。（見える化） ・意見が出なかったときのために、いくつかの方法を書いたカードを作成し、タブレットで一覧にまとめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の怒りに合わせた対処方法について考え、記入することができる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に怒りがわいたときにとる方法を三つ決め、発表する。 ・怒りを鎮める方法がとれたときにもらえるシール台紙に今日のプリントを貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できたときにシールを貼ったり色をぬったりすることで達成感を見える化しておく。（些細な怒りも対象） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の生活で意識して行動しようと考えて、三つの方法を説明できる。

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	発達障がい（通級による指導）①	学年	中学校 第3学年
-------	-----------------	----	----------

実態把握等	<p>「障がいの状況等」</p> <p>ASD 傾向 療育手帳・精神障害者保健福祉手帳なし WISC-IV FSIQ:88 (VCI:84 PRI:93 WMI:109 PSI:78) 2016年実施</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題を時間内にやり終えることができないことがあるが、十分に時間をとればできる。 ・授業や家庭での学習では決められた課題があれば、集中を保ち取り組むことができる。 ・考えをまとめる手助けがあれば、自分の意見や考えを文章にすることができる。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗や予定外のことが起きた時に柔軟に対応することは苦手であるが、先の見通しがあれば、安心して行動することができる。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表情がかたく、感情を表現することは苦手であるが、自分の好きな話をする際には笑顔で話することができる。 ・休み時間等は一人で過ごすことが多い。自分から話しかけることは苦手に感じており、一人で過ごすことの方が好き。 ・敬語で丁寧な言葉づかいはできるが、状況に合わせて、くだけた言葉づかいをすることが苦手。 ・適切に発表やスピーチをすることはできるが、話し合い活動では、内容に沿った発言ができなかったり、相手の話をさえぎることなく聞くことができないときがある。
	<p>「本人・保護者の願い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学校生活を送りたい。 ・ソーシャルスキルを身に付けてほしい。 ・自分の気持ちを適切にはっきりと伝える力を付けてほしい。

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・体を動かすことを好まない。	・先の見通しがなく不安になる。 ・感情や考えをうまく表出することができない。 ・状況の変化にうまく対応できないことがある。	・自発的に集団に参加しようとする姿勢が見られない。 ・一方的に自分の好きな話をするところがある。	・集団での指示が聞き取りにくいことを理解している。 （教室座席は前列を希望）	・体の動きがぎこちなく、不器用である。	・自分の意志や感情を表現することが苦手。 ・内容に即した、発言ができないことがある。

1年後をみすえた長期目標	・他者と関わろうとする意欲を持つ。
--------------	-------------------

短期目標（1学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・他者について知り、興味を持つ。 ・自分の取り組むことについて、自ら考え決定することができる。 ・対人関係を円滑に運ぶための知識と具体的なコツ（ソーシャルスキル）について知る。
-----------	--

具体的な指導内容（指導場面）	【グループ指導】 (Web会議システム) ・ソーシャルスキルの基本スキル（全14スキル）	【個別指導】 ・クラスメイトについて、どのような人なのかをリサーチし、まとめる。	【個別指導】 ・ソーシャルスキルの絵カードを見て、その場面の状況を認識し、対処法について考える。
目標達成に向けた合理的配慮	・スキルのポイントやコツを理解しやすくするため視覚的にも提示する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の好きなものを活用し、活動に興味関心がもてるよう工夫する。 ・次回に取り組むことについて、あらかじめ予告しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注目すべきポイントが理解できるように声かけを行う。 ・書いてまとめてから、話をさせるようにする。
関連する自立活動の区分	(心) (3) (人) (1) (2) (4) (コ) (1) (2) (5)	(人) (1) (4) (コ) (3)	(人) (2) (コ) (3)
めざす姿	・ソーシャルスキルの基本スキルについて知る。	・休み時間など、クラスメイトと過ごす時間を増やす。	・場の状況を的確に認識し、対処法を考えることができる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第3学年

指導場所：通級指導教室

指導形態：個別指導

1. 主題（題材等）

- ・「Let's think!!」

2. 本時の目標

- ・3人のクラスメイトの性格や特徴についてまとめ、説明することができる。
- ・2つの場面の状況を理解し、説明することができる。また、対処法を考えることができる。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	指導上の留意点・配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつ ○ 本時の学習内容の確認 ○ チェックトーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・先を見通し安心して学習に取り組めるように説明する。 ・取り組む順番は本人が決める。 ・一週間にあった出来事について、自分で話題を決め簡潔に話をする。また人の話を聞き、質問をする。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラスメイトリサーチ <ul style="list-style-type: none"> ・今までリサーチし、考えたクラスメイトの性格や特徴などについて気付いたことを書く。 ○ これって どんな場面？ <ul style="list-style-type: none"> ・2つの場面の絵カードを見て、どんな場面か考える。また、その対処法について考える。 ○ コミュニケーションゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・「アンゲーム」を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く内容に困った時のヒントを用意しておく。 ・書けた内容についての訂正や指摘をできるだけ避け、ほめることを心がける。 ・うまく言語化できない場合、注目するとよいポイントを伝える等の助言を行う。 ・書いてまとめてから、説明するよう配慮する。 ・相手の順番時はしっかり話を聴く。 ・答えにくい問題があれば、パスでも大丈夫であることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3人のクラスメイトの特徴について考え、自分なりにまとめて話している。 ・2つの場面の状況を的確に認識できている。また、自分なりの対処法を考えている。 <p>(評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへの書き込み内容及び、説明の内容。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習内容の振り返り ○ 次回の日時を確認する。 ○ あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくできたことを褒めて、自信を付けさせる。 	

自立活動実践事例（各教科等の目標及び内容を含む）

障がい種別	発達障がい（通級による指導）②	学年	中学校 第2学年
-------	-----------------	----	----------

実態把握等	<p>「障がいの状況等」</p> <p>療育手帳なし。</p> <p>【学習面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定着に時間がかかるため、翌週になると思い出すのに時間がかかってしまう。 ・当該学年の知っている言葉の漢字は読むことができる。 ・漢字を音から言葉に変換するのが苦手であるが、ヒントを出せば漢字自体は思い出すことができる。 ・語彙が少なく、自分の気持ちを言葉にして表現するのが苦手であるが、時間をかければ答えることができる。 ・問題用紙で解くことができているが、解答用紙に写すときに違うことを書いてしまうことがある。 ・長音を書き間違えることがある。 <p>【生活面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を送っている。時間もきっちりと守ることができる。 ・自分に自信がなく、初めての場面で緊張する。 ・小集団の中で指示を聞いて理解することに時間がかかる。 <p>【社会性・コミュニケーション面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなことなどは自ら話すことができる。 ・投げかけられた問いかけに対して、時間はかかるが話せるようになってきている。 ・気の知れた友だちであれば、教室以外の場所で話すことができる。 ・人が多い場面では緊張してしまう。 <p>「本人・保護者の願い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉にしたい（本人）

自立活動の区分に即して実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を送ることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい場面では緊張してしまう。 ・自分でも思っていることをうまく言葉にして表現できないことに悩んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人や気の知れた友だちとは話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大勢の場であると戸惑ってしまう。 ・集団の中で指示を聞いて理解することに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・折り紙など手先を使った作業は好き。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が少ない。 ・自分の思っていることを言葉にすることに時間がかかる。

1年後をみすえた長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の現状を知り、自信を持つ。 ・言語や非言語によるコミュニケーションを身に付ける。
--------------	--

短期目標（2学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のできることを知り、自信を持つ。 ・自分の気持ちを言葉で表現できるようになる。 ・聞いたことを正しく書き取ることができる。また、口頭での短い指示を聞いて理解できるようになる。
-----------	--

具体的な指導内容（指導場面）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業の始めに比較的得意な「短期記憶トレーニング」などを継続して取り組む。 ・様々な課題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分について理解するために、SSTワークシートに取り組む。 ・様々な場面を想定し、実際のコミュニケーションに繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞き取りワーク」を通して苦手の聞き取る活動に取り組む。
目標達成に向けた合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回得意な課題を取り入れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの選択肢から選べるように準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な問題から少しずつチャレンジさせる。
関連する自立活動の区分	(心) (1) (環) (2)	(人) (3) (コ) (2)	(環) (5)
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・できることを知り、自分に自信を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉で表現できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたことを正しく書き取ることができる。また、口頭での短い指示を聞いて理解できるようになる。

自立活動学習指導案（各教科等の目標及び内容を含む）

学 年：第2学年

指導場所：通級指導教室

指導形態：個別学習

1. 主題（題材等）

- ・上手にメモを取ろう。
- ・気持ち言葉について考えてみよう。

2. 本時の目標

- ・文章を聞き取り、正しくメモを取ることができる。
- ・気持ち言葉を使う場面を考えることができる。

3. 本時の展開

	学習活動・学習方法	○指導上の留意点・◆配慮事項	評価規準・評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・いま、どんな気持ち（5分） ・トーキングゲーム（5分） <ul style="list-style-type: none"> ① お題について話す ② 相手の話に質問をする ・本時の流れを確認する。 ・短期記憶トレーニング（5分） <ul style="list-style-type: none"> ① 「形さがし」【見付ける】 ② 何が1番【聴覚記憶】 ・ことばワークシート（3分） 	<ul style="list-style-type: none"> ○感情ポスターを見ながら今の気持ちの表情を選び、理由を説明する。 ○自分の想定しない話題に対して答える練習をする。 ○相手の話を聞いて質問を考える練習をする。 ◆答えにくいお題はパスをしても良い。 ○定型のトレーニング+苦手な聞くトレーニングを行う。 ◆得意なことに対してはフィードバックして自信を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉で表現することができる。【観察】 ・想定しない課題に対しても答えることができる。【観察】 ・相手の話を聞き、質問を考えることができる。【観察】 ・得意なことを認知し、苦手なこととも受け止めることができる。【観察】 ・たくさんの文字から言葉を探し出すことができる。【観察】
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・聞きとりワークシート（10分） 「めざせ！聞きとりメモ検定」 ・SSTワークシート（20分） <ul style="list-style-type: none"> ① 自分が知っている気持ちを表す言葉を挙げる ② 気持ち言葉を分類する ③ どんな時にその気持ちになるかを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○メモが追いつくように、内容を省略してメモを取って良いことを伝える。 ◆難しそうな時は何回か繰り返すところから始める。 ◆聞き逃してしまった時はヘルプカードを使って聞き直す練習をする。 ○自分が使う気持ち言葉を考えるように促す。 ◆例文を見ながら自分が考えられそうな気持ち言葉を選ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取る内容を記憶しておき、メモを取ることができる。【ワークシート】 ・言葉の内容を正しく聞き取ることができる。【ワークシート】 ・気持ち言葉を使う状況を考え、文で表すことができる。【発言】
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 ・次回の日時の確認をする。 ・あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○できていたことをほめる。 	



コラム <支援学級における自立活動>

多くの支援学級では、自立活動の指導は行う必要があります。教員養成大学の教員から、「特別支援学級では、特別な教育課程を編成する場合だけ自立活動を行うので、基本的には行わなくても良いですよ。」と聞かれたことがあります。しかし、これは誤解している点があります。

小・中学校等の学級では、当該学年で指導すべき各教科等の内容を必ず指導しなければなりません（ただし、特に示されている場合を除く）。しかし、障がいのある子どもの中には、学年相当の教科等を指導することが困難な場合があります。そのような時に、支援学級では、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領にある「重複障害者等に関する教育課程の取り扱い」を参考にして、教科等の内容の一部を取り扱わない、又は教科等を前学年の教科等に替えて指導していると思います。このような教科等の目標や内容の変更は「特別な教育課程を編成」することですので、その様な場合は必ず自立活動を行ってください。

自立活動は、個々の子どもの実態等に即した指導を効果的に行うための特別な指導領域です。自立活動の指導を行うに当たってのポイントは次の三点です。

- ① 「障害」を克服するのではなく、「障害による困難」を改善・克服することをめざす
- ② 自立活動の時間の指導を中心にして、学校活動全般で行う
- ③ 特定の機能や動作だけではなく、バランスの取れた指導を行う

学校での教育の目的や目標は、医療機関等がめざすものとは異なります。①のように自立活動では、病気や障害を治療するのではなく、学習上又は生活上で困難になっている状態を改善・克服することをめざします。実情に応じて適宜サインペンなどのアナログツールの活用、タブレットやスマートフォン等のデジタルツールの活用、電動車椅子等の移動支援機器の活用なども、積極的に進めて行く必要があります。

自立活動の指導は、②のように中心となるのは「時間の指導」です。このことは、道徳教育における、「学校における道徳教育は、道徳科を要（かなめ）として学校の教育活動全体を通じて行うもの」を参考にすると分かりますように、「時間の指導」を設けた上で、他の教科等で指導を展開することが基本です。

学校での教育では、知徳体のバランスの取れた子どもの育成をめざしています。同様に自立活動の目標に「・・・知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」とあるように、発達の遅れや不均衡等を改善するだけでなく、発達の進んでいる面や得意な面などを伸ばすことによって、遅れや不均衡のある面の発達を促すなど、全人的な発達を促進することが求められています。このため、自立活動の具体的な指導を検討するに当たっては、自立活動の内容として示されている6区分27項目の中から、子どもの実態等に即した複数の区分・項目を抽出して、それらを相互に関連付けることにより、個々の子どもの実情に即した指導にしていく必要があります。

関西学院大学 丹羽 登 教授



VI 自立活動の指導と集団づくり

自立活動の意義

中学校における教育も小学校同様、子どもの生活年齢に即して系統的・段階的に進められています。

障がいのある子どもは、その障がいによって、日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じやすいことから、生活年齢に即した段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えません。

そこで、個々の実態把握によって導かれる「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」及び、「障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」、いわゆる心身の調和的な発達の基盤に着目して指導する自立活動が必要となります。

自立活動の指導は、各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っているため、学校の教育活動全体と密接な関連があります。

各教科、道徳科、外国語活動、
総合的な学習の時間、特別活動
における自立活動の指導



密接な関連

自立活動の時間
における指導

自立活動の目標や内容の共有

自立活動の授業時数については、学習指導要領には一律に示されていません。一人ひとりの障がいの状態等に応じて適切に設定される必要があることから、それぞれの学校が実態に応じた指導を行います。

大阪府では、支援学級に在籍している子どもたちの特別の教育課程において、「交流及び共同学習」の時間を大切にしているという特徴があります。

「交流及び共同学習」充実のためには、その取組みの意義やねらい等について、関係者（教職員、子ども、保護者等）の共通理解を図る必要がありますが、学校全体で子どもの指導・支援を行うという観点からも、支援学級の担任と各教科等を担当する教員とで、自立活動の目標や内容を共有する必要があります。

安心して過ごせる集団づくり

中学校は教科担任制のため、小学校に比べ、一人の子どもに関わる教員の人数は多くなります。また、通常の学級の担任が自身の学級で指導する時間は、小学校と比べると、どうしても少なくなります。

一方で、障がいのある子どもたちのなかには、環境の変化等を苦手とする子どももいます。授業のたびに教員が変わり、対応も変わることで、困っている子どもがいるかもしれません。

そのような子どもたちが、「交流及び共同学習」で安心して学ぶためには、その子どもの困りや強み、現時点での目標、どのようなことを学んでいるのか、どのような合理的配慮が必要なのか、本人が困っているときはどう対応すればよいのか等を、学校全体で共有することが必要です。

そして、このような情報を共有することが、集団づくりにおいても重要な要素となります。

支援学級に在籍する子どもには、「特別の教育課程」が編成され、自立活動の指導が行われています。日常生活や学習場面において、他の子どもと同じようにすることが難しかったり、同じよ

うにするために配慮や支援が必要だったりする状況も起こります。

集団づくりにおいては、日々の学校生活のなかで子どもどうしのつながりをどのようにつっていかしていくかという観点が大切です。ときには、障がいのある子どもへの理解や関わり方等について、周りの子どもたちへの指導が必要なこともあるでしょう。担任ではなく、教科担当の教員が指導することもあるかもしれません。その際、教員どうしで障がいのある子どもの情報を共有できていなかったら、周りの子どもたちへ適切な指導や対応はできません。

子どもに関わる教職員が、障がいのある子どもの強みや必要な合理的配慮、困っているときの対応方法などをしっかりと共有し連携することが、周りの子どもたちの障がいに対する理解につながります。

また、障がいのある子どもが、自立活動で学んだことを、日常生活や学習場面で活かすためには、その学級等が安心して過ごせる集団でなければなりません。

支援学級、通常の学級に関わらず、お互いを認め合い、高め合える集団であること、すべての子どもが安心して過ごせる配慮や工夫があることが大切です。



事例

支援学級に在籍する A さんは、学習や活動を途中でやめてしまったり、イライラして友だちに大声できついことばを言ったり、机や椅子など身のまわりにあるものを蹴ったりしてしまうことがあります。

本人は、学習や活動をやりとげたいと思っており、自分の言動に友だちが困惑していることにも気が付いています。なんとかしたいと考えているのですが、気持ちが抑えられません。

また、保護者も友だちとのトラブルが減ってほしいと願っています。

そこで、本人・保護者の思いをふまえ、学校は実態把握のために、A さんに関わる全ての教職員で行動観察を行い、エピソードを整理しました。すると、A さんの次のような特徴や課題が見えてきました。

- 1、次に何をするかわからないときに学習や活動をやめてしまうようだ。
- 2、ノートをとるときの体の動かし方が気になる。
- 3、体を動かすのは好きだけれども、姿勢を維持するのは難しそうだ。
- 4、困ったときに、教職員や友だちにどう伝えていいかわからないのではないかと。

1～4 をふまえ、支援学級担任は次の①～③について本人・保護者と共有し、自立活動の指導に取り組んでいます。

- ①次に何をするかを、本人が把握するためにスケジュールを示す。
- ②学習や活動を続けられないのは、姿勢の保持や眼球運動に課題があると考えられるので、体幹を鍛える運動やビジョントレーニングをする。
- ③体を動かすことが好きなので、こまめに活動する時間を取り入れる。

また、A さんの合理的配慮を「個別の教育支援計画」等を用いて、校内で共有しています。例えば、「学習や活動の際には見通しが持てるように、活動内容やスケジュールを紙で示す」、「イライラしたときは、先生に声をかけてクールダウンのスペースに行ってよい」など、学校生活の様々な場面で、A さんに合理的配慮が提供されるようにしています。さらに、必要に応じて周囲の友だちにも、A さんへの合理的配慮について伝えるようにしながら、「A さんだけ・・・」とならないよう、教職員たちは、どの子どもも安心して過ごせる学級をめざして、集団づくりに取り組んでいます。

【ともまな豆知識①】

※ともまな・・・「ともに学び、ともに育つ」教育の略語

<合理的配慮について>

- ・個別の教育支援計画は、学校だけでなく地域でも活用されることをふまえ、本人・保護者と合意形成を図った「合理的配慮」についても、その計画に記載する。
- ・自立活動で取り組んでいることが、通常の学級における支援のてだて（合理的配慮）につながる可能性が高い。



コラム <支援教育の視点から考える生徒指導>

近年、生徒指導と支援教育の融合が声高に叫ばれています。これらは一見相反することのように思われがちですが、対立して考えるべきものではありません。このようなことを話すと「生徒を甘やかしていいのか？」というご意見をいただきそうですが、支援教育は子どもを甘やかすことではありません。一人ひとりの実態を把握し、一人ひとりに応じた支援を考えることが支援教育の主旨であり、ときには毅然と譲らない指導も含まれます。

筆者も若いころは（今も若い気持ちですが…）、高等学校において校務分掌は生徒指導一途でした。そのころは支援教育の視点を持たず、すべての子どもたちの個のニーズを考えることなく頭ごなしに否定的な指導をしていました。かづくで抑えれば生徒は良く指示に従ってくれましたが、その呪縛が解かれたとき、余計によくない行動をするようになっていました。私たちが生徒に求めることは、強い指導をする人の指示に従うことではなく、誰の前でも適切な行動ができることです。毅然と強い指導も必要な場合もあるのですが、その前に一人ひとりの生徒の実態を把握し、その養育等の背景を考えるという視点がなかったと思います（反省☒）。

これからは、一人ひとりの生徒の実態とニーズを把握し、それに集団の中で応えていくことが重要なのではないかと思います。すべての生徒を幸せな大人にするために、ぜひ生徒指導と支援教育を融合させたいものです。

梅花女子大学 伊丹 昌一 教授



Ⅶ 自立活動の指導と卒業後の自立

本人・保護者の思い

子どもが自立活動に主体的に取り組むためには、本人・保護者の思いを聞き取り、自立活動の指導に反映させることが大切です。学校が適切な実態把握や目標設定を行っていても、本人の意欲が引き出せなければ、目標を達成するのは難しくなります。

本人の意欲を引き出すためには、本人・保護者の思いを丁寧に聞きとる必要があります。本人・保護者の「こんな力を付けたい」「こんなことができるようになってほしい」という思いが、自立活動への意欲につながります。

また、自立活動の指導を考えるにあたっては、中学校卒業後の将来をみすえた視点も大切です。本人・保護者と、卒業後の進路や将来の目標などについて共有し、今、何に取り組むかを丁寧に話し合うことが重要です。

卒業後の自立に向けて

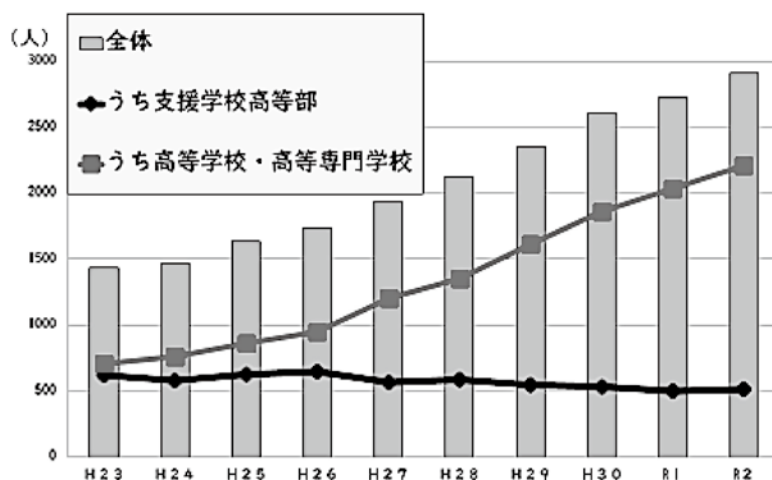
障がいのある子どもの進路を考えるにあたっては、子どもの可能性を最大限に伸ばし、将来、自らの選択に基づき地域で「自立」した生活を送ることができるよう、障がいの状況に応じた教育を推進するとともに、本人や保護者の主体性や選択を最大限尊重し、一人ひとりの希望に応じた進学や就労の実現に努めることが重要です。

支援教育や福祉領域における「自立」とは、辞書にあるような「他の助けや支配なしに自分一人の力だけで物事を行うこと」という意味ではありません。

例えば、「自己実現すること」「周囲に助けを求めること」「さまざまな制度を活用すること」、このような力を付けることも「自立」です。

それぞれの障がいの状況や特性に応じて、目標とする「自立」のあり方が異なるということをつまえたうえで、学校は、本人・保護者と進路相談を行うことが大切です。

中学校の支援学級在籍生の進路状況の推移



大阪府教育庁しらべ

左のグラフは、中学校で支援学級に在籍している生徒の進路状況の推移を表したものです。10年ほど前から、支援学校高等部よりも高等学校や高等専門学校等に進学するケースが非常に多くなっており、障がいのある子どもの進路先も多様化しています。このような状況をふまえると、進路相談において、丁寧な情報提供は不可欠です。そのために、学校は進学や就労に関する情報を積極的に収集し、学校全体で、進路相談を行うことが大切です。

自立活動と進路相談

自立活動の指導内容は、子どもたちが自分自身の進路について考えたり、準備をしたりするときにも活かすことができます。

例えば、自立活動で自分の「得意なこと」「苦手なこと」を把握し、「自己理解」を深めたり、分からないことを「相談する」「尋ねる」という「相談スキル」を身に付けたりすることは、入学者選抜の「面接」や、入学後の自己紹介や人間関係を築くことにつながっていきます。

中学校の進路相談においては、子どもに進路に関する情報を積極的に調べるよう、指導されていると思います。子どもが調べた情報をうまく活用するためにも、自立活動の指導は大切です。

進路相談のポイント

＜子どもが「調べておけばよかった・・・！」とならないために＞

【情報の集め方】

- ① 学校説明会・オープンスクール（見学会）・合同説明会等に参加する。
- ② 先輩の話を聞く。（可能な範囲で）
- ③ ホームページやリーフレット等を活用する。

【観点】

- ① 学習内容等（カリキュラム、○○コース等の内容、科目の選択 等）
- ② 卒業資格
- ③ 先輩たちの卒業後の進路状況
- ④ 交通手段と通学時間等（登下校の時間帯に、実際に往復してみる）
- ⑤ 昼食（給食等の有無、昼食の持参が必要か、学食や購買の利用はできるのか 等を確認）
- ⑥ 施設・設備等
- ⑦ 部活動（どんなクラブがあるのか、どのような方針で活動しているのか 等）
- ⑧ 行事
- ⑨ 制服等の有無
- ⑩ その他 特色など

【選抜について】

- ① 入試制度の仕組み（併願と専願、府立学校と私立学校 等）
- ② 応募資格
- ③ 選抜方法
 - ・ 日程
 - ・ 検査内容（学力検査等の有無とその内容、面接及び実技検査の有無とその内容 等）
 - ・ 出願に関すること（必要書類 等）
- ④ 配慮事項について

参考資料① 進路に関する情報

※このページの情報は冊子作成時のものです。

知的障がい生徒自立支援コース、共生推進教室、 職業学科を設置する知的障がい高等支援学校、 府立支援学校高等部について

◆高校における「ともに学び、ともに育つ」教育の推進

* 出願には療育手帳の所持が必要です

知的障がい生徒自立支援コース

高校のカリキュラムや授業内容を工夫し、知的障がいのある生徒が、いきいきと学び、障がいのあるなしに関わらず、ともに高校生活を送り、交友を深めています。

設置する公立高校	所在地
園芸高校	池田市
阿武野高校	高槻市
柴島高校	大阪市東淀川区
枚方なぎさ高校	枚方市
八尾翠翔高校	八尾市
西成高校	大阪市西成区
松原高校	松原市
堺東高校	堺市
貝塚高校	貝塚市
大阪市立桜宮高校	大阪市都島区
大阪市立東淀工業高校	大阪市淀川区

共生推進教室

職業学科を設置する知的障がい高等支援学校の共生推進教室を、府立高校に設置しています。両校が連携協力し、高等支援学校の生徒が、高校の生徒とともに学び、交友を深めています。
また、週に1回程度、職業に関する専門教科を高等支援学校で学んでいます。

設置する公立高校	所在地	本校（高等支援学校）
千里青雲高校	豊中市	とりかい高等支援学校
北摂つばさ高校	茨木市	
芦間高校	守口市	むらの高等支援学校
緑風冠高校	大東市	たまがわ高等支援学校
枚岡樟風高校	東大阪市	
金剛高校	富田林市	すながわ高等支援学校
信太高校	和泉市	
久米田高校	岸和田市	なにわ高等支援学校
東住吉高校	大阪市平野区	
今宮高校	大阪市浪速区	

◆就労を通じた社会的自立をめざす高等支援学校

* 出願には療育手帳の所持が必要です

職業学科を設置する知的障がい高等支援学校

知的障がいのある生徒の就労を通じた社会的自立をめざす教育課程を編成した、高等部のみでの支援学校です。

5校とも、職業に関する専門の学科を設置し、職業実習や現場での実習の時間を多く取り入れるなど、職業教育の充実を図っています。

高等支援学校名	所在地	電話番号
とりかい高等支援	摂津市	072-654-9235
むらの高等支援	枚方市	072-805-2327
たまがわ高等支援	東大阪市	072-961-4730
すながわ高等支援	泉南市	072-485-3810
なにわ高等支援	大阪市浪速区	06-6561-7361

知的障がい生徒自立支援コース・共生推進教室の概要

高等学校における知的障がいのある生徒の学習機会の充実を目的として、全国に先駆けて平成18年度に制度化

- 知的障がいのある生徒を対象とした入学選抜を実施
- 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する観点から、多くの授業を通常の学級で受けながら、生徒一人ひとりのニーズに応じて小集団や個別の授業を組み合わせる実施
- 個別の指導計画を作成・活用し、学習目標の達成状況を基準に評価(個人内評価)

大阪府学校教育審議会答申 (H17.9) をふまえ、以下の二つの方式で取組みを推進

	知的障がい生徒自立支援コース	共生推進教室
生徒の学籍	高等学校	知的障がい支援学校
募集人員等	11校※、各校3人(枚方なぎさ、松原、貝塚の3校は4人) 3学年合計90人 ※大阪府立2校を含む	10校、各校3人 3学年合計84人(R3年度現在、東住吉・今宮は2年生まで)
教育課程等	高等学校にコースを設置し、高等学校学習指導要領に基づき教育課程を編成	高等学校と支援学校が連携し、特別支援学校高等部学習指導要領に基づき教育課程を編成
授業の場所	高等学校(週5日)	高等学校(週4日)+高等支援学校(週1日)
制服・学校行事等	高等学校	高等学校
教員配置	1校あたり4人(国加配定数を活用)	1校あたり6人…設置校5人、本校1人(支援学校の基礎走数)
非常勤講師時間数	1校あたり12時間+募集人員増1人につき8時間	なし
学習サポーター	生徒1人あたり40回	生徒1人あたり24回

共生推進校の教員体制

共生推進校における教育活動に支障が出ないよう、設置校(高校)の教諭(管理職含む)には本校(支援学校)の兼務、支援学校籍で設置校に勤務する教諭には設置校(高校)の兼務をそれぞれ発令



学習サポーター

- 「大阪府学校支援社会人人材バンク」を活用し、主に大学生等がボランティアとして学習支援やコミュニケーションの仲立ち等を担う
- 各校の卒業生が学習サポーターの担い手となるケースもある

大阪府立高等学校における通級による指導の概要

現状

- 平成30年～府立高等学校4校に通級指導教室を設置
- 当面の間、発達障がいやその特性のある生徒を対象とし、自校通級を基本として実施
- 国の通級指導加配による担当教員(各校1人)を配置

	H30	R元	R2
通級指導教室設置校数	2校	4校	4校
通級による指導を受けた生徒数	6人	15人	20人

通級による指導の実施時間は生徒のニーズをふまえて、以下の2つの方法で実施

- 教育課程を替える場合(時間割内の選択科目の一つとして実施)
- 教育課程に加える場合(放課後等の時間帯に実施)

- 教育庁内に、「通級指導運営委員会」を設置
学識等(学識経験者、作業療法士、臨床心理士等)から、通級指導教室担当教員に対し、指導内容等に関する指導助言の機会を設定

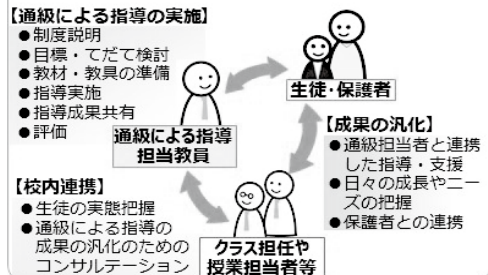
【設置校一覧】



通級による指導の流れ

- ① 生徒・保護者への制度説明
- ② 入級希望の確認
- ③ 対象生徒の実態把握(行動観察や生徒・保護者からの聞き取りなど)
- ④ 「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成・活用
- ⑤ 通級による指導の開始(入級)
- ⑥ 担任や授業担当者との指導・支援方針等について共有・連携
- ⑦ P D C A サイクルによる指導目標やてだての見直し
- ⑧ 評価・単位認定(35単位時間の指導及び目標達成が必要)
- ⑨ 通級による指導の終了(退級)

通級による指導担当教員の業務例



※令和4年度より、新たに「箕面東高校」「野崎高校」「布施高校(全日制)」「教育センター附属高校」「富田林高校」「和泉総合高校(全日制)」の6校に通級指導教室を設置し、10校の府立高校で通級による指導を行います。

※ このページの情報は、冊子作成時のものです。最新情報は要項等を参照してください。

受験上の配慮についての事前相談

大阪府教育委員会では、受験上の配慮に関する事前相談を随時受け付けています。

大阪府公立高等学校入学者選抜の受験上の配慮について、疑問点や分からないこと等があれば、配慮申請や志願先高等学校の申出の締切りにかかわらず、できるだけ早く中学校を所管する教育委員会を通じて問い合わせてください。（府立支援学校及び府立中学校（以下「府立支援学校」という。）及び国私立の中学校においては府教育委員会へ直接問い合わせてください。以下同じ。）

【別表1】教育委員会の審査が必要な配慮事項

I 障がいのある生徒に対する配慮（様式501～503による申請）

種類	対象者	内容	受験室
1 学力検査時間の延長	(1) 点字による教育を受けている者 (2) 強度の弱視者で、良い方の眼の矯正視力が0.15未満の者 (3) 体幹の機能障がいにより座位を保つことができない者又は困難な者 (4) 両上肢機能の障がい著しい者 (5) その他、障がい等の状況により、学力検査時間の延長を必要とする者	(1) 各検査教科等に規定した学力検査時間の1.5倍 (2) } (3) } 各検査教科等に規定した学力検査時間の約1.3倍 (4) } (5) }	別室
2 代筆解答	障がいの状況により、筆記することが不可能又は困難な者	(1) 代筆解答のみ (2) 代筆解答及び学力検査時間の延長（約1.3倍）	別室
	上記「代筆解答」を認められた者及び点字による受験が認められた者で、自己申告書の代筆を必要とする者	自己申告書の代筆	—
3 介助者の配置	障がいの状況により、受験に際して介助を必要とする者	(1) 介助のみ (2) 介助及び学力検査時間の延長（約1.3倍） （注）介助の内容は、別途、中学校と府教育委員会とで協議する。 なお、介助者の配置は、検査室内に原則として中学校教諭を1名とする。	別室
4 問題用紙等の変更	(1) 点字による教育を受けている者 (2) 障がい等の状況により、通常の学力検査問題用紙等による解答が困難な者	(1) 点字による問題用紙等の使用 (2) ア 拡大した問題用紙等（原則B4判）の使用 イ 漢字にひらがなのルビを付した問題用紙等の使用	原則として別室
5 英語のリスニングテストの筆答テストによる代替	原則として、両耳の聴力レベル（裸耳）が30デシベル以上の者で、補聴器を使用しても語音が明瞭に聞き取れない者	筆答テストによる代替	リスニングテストのみ別室
6 物品の持込み	学力検査の実施にあたって、実施細目により必ず携行するもの又は携行してもよいものと定めたもの以外の物品の持込みを必要とする者	物品の持込み	原則として別室

Ⅷ 円滑かつ適切な引継ぎについて

現状と課題

支援学級に在籍している子どもや通級による指導を受けている子どもについては、長期的な視点に立って幼児期から学校卒業時までの一貫した支援を行うことが重要であることから、各学校においては、本人や保護者の同意を得たうえで、「個別の教育支援計画」等を活用し、進学先等に適切に引き継ぐこととされています。

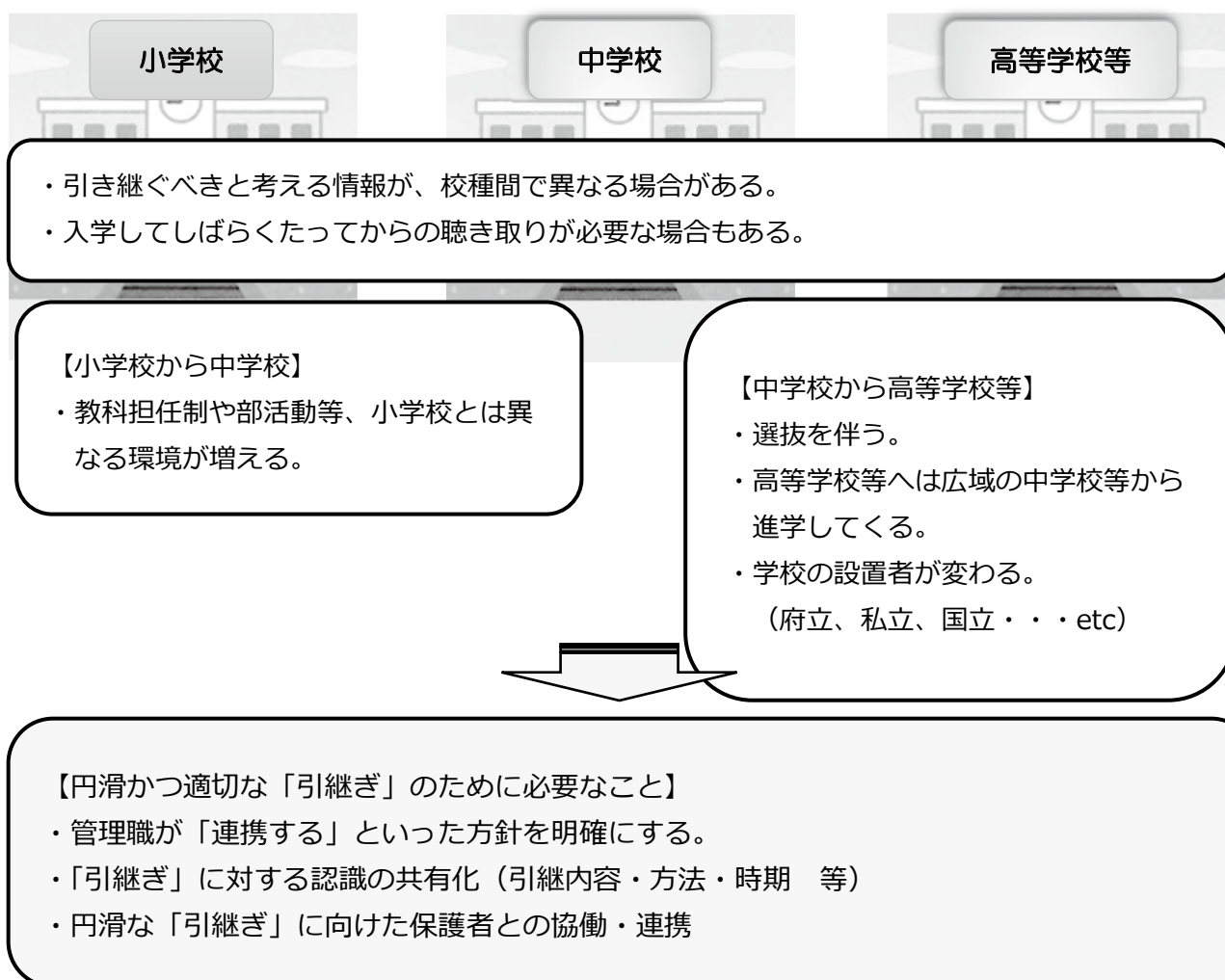
しかしながら、引継ぎについては、次のような指摘もされています。

「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議（報告）」（令和3年1月）においては、小中学校等の特別支援学級や通級による指導で様々な指導を受けていた生徒が、高等学校において指導を受けるに当たって、小中学校等での指導や合理的配慮の状況などが十分引き継がれていないとの状況が散見されることから、「個別の教育支援計画」やこれまでの各地域で共有されてきた関連資料を活用し、小中学校等での指導を高等学校での指導につなげていくことの重要性が指摘された。

「障がいのある子供の教育支援の手引

～子供たち一人一人の教育的ニーズをふまえた学びの充実に向けて～」より抜粋

引継ぎに関する留意点



大阪府では、平成 27・28 年度に文部科学省の「発達障害のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業（系統性のある支援研究事業）」を受託し、発達障がい等のある児童生徒の効果的な引継ぎに関する調査研究を行いました。2 年間の調査研究の中から、各学校段階の移行期における連携の在り方や引継ぎのポイントをまとめていますので、参考に掲載します。

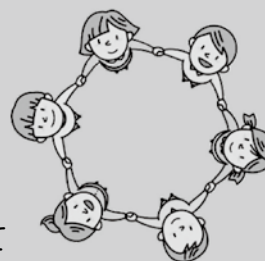
参考資料①

「発達障がい等のある児童生徒の円滑かつ適切な引継ぎの在り方について 系統性のある支援研究事業 実践報告」より 一部抜粋

各学校段階の移行期における引継ぎ、共通のポイントについて

<ポイント① 引継ぎ内容から>

- 発達段階等に応じて、
 - ・ 将来に向けた本人・保護者のニーズ
 - ・ 障がいの状況や本人の特性
 - ・ 生活習慣や身辺自立の状況
 - ・ 興味や関心のあることから
 - ・ これまで行ってきた支援内容や方法、合理的配慮について
※合理的配慮については、その必要性についても引き継ぐ。
 - ・ 集団内での様子や対人関係等について引き継ぐ。
- 個別の支援情報だけでなく、授業づくりや集団づくりの工夫など、これまで学校が取り組んできた教育環境についても引き継ぐ。支え合う集団は最大の支援となることから、集団づくりの視点を大切に引継ぎを進める。



<ポイント② 相談窓口、支援教育コーディネーターの役割から>

- 校区内にある小・中学校と比べ、中学校と高等学校は物理的にも日常的な連絡体制がづくりにくい。そのため、生徒の支援内容や支援方法等について、いつでも相談ができるよう、双方の相談窓口を明確にしておく必要がある。
- さまざまな支援を必要とする児童生徒はどの学校でも学んでいるという認識を持ち、支援教育コーディネーター等が中心となって、日頃から情報の収集や発信に努めていくことが大切である。



<ポイント③ 入学までの取組みから>

- 支援を必要とする児童生徒が入学するまでに前在籍校での授業中や学校行事等での様子を参観するなどして、児童生徒の状況を把握しておくことが望ましい。つまりきやすい場面や得意なこと、具体的な支援方法等について、児童生徒の姿を通して引継ぎ、進学後のスムーズなスタートにつなげていく。
- 入学式などの初めての場面や新しい環境に対する本人の不安を和らげるために、配慮する必要がある。例えば、事前に入学式の流れを聞く、会場や教室等の施設を見学することは、心構えや見通しを持つことができ、本人の安心につながる。
- 受験時の配慮事項の他、出願時や進学後に必要となる支援内容、ケースに応じて必要となる人的支援や施設面での配慮について等、受験前であっても生徒の支援情報を伝えておくことは大切である。中学校は、担任や支援教育コーディネーター等と保護者が、在籍中の支援内容や進学後に支援が必要と思われるポイント、高等学校への引継ぎの手順などについて話し合い、整理しておく。

<ポイント④ 「個別の教育支援計画」の作成・活用から>

- 幼稚園、保育所等の就学前施設が蓄積してきた支援情報を集約、整理して、小学校へ効果的に引き継ぐことができるよう、既存の「支援シート」や「サポートファイル」等を積極的に活用する。「個別の教育支援計画」の作成にあたっては、引き継ぐ内容や引継方法を保護者と相談・共有した上で、児童の目標や指導・支援の内容を決定していく。
- 中学校では小学校で作成された「個別の教育支援計画」の支援内容等を引継ぎ、教職員の共通理解と支援体制の整備を図る。教科担任制や部活動等、小学校とは異なる環境も増えることから、新たに支援が必要になる可能性がある点についても十分に話し合い、「個別の教育支援計画」に記載するようにする。
- 一人ひとりの障がいの状況や教育的ニーズに応じて決定される合理的配慮については、「個別の教育支援計画」を作成する中で、本人・保護者と合意形成を図っていく必要がある。また、合理的配慮の内容や理由等は「個別の教育支援計画」に明記するなどして定期的に見直し、次の学校段階へ確実に引き継いでいく。
- 前在籍校の卒業時に保護者に返却し、保護者が後在籍校へ持参する場合と、保護者の了承を得て前在籍校から後在籍校へ引き継ぐ場合とが考えられるが、保護者が持参する場合であっても、事前に学校間の支援教育コーディネーター等が「個別の教育支援計画」の内容を共有し、十分に引継ぎを行うことが必要である。



～information～

府立高等学校では、入学時に生徒・保護者が記載した「高校生活支援カード」を活用して、生徒の状況や本人・保護者の支援ニーズを把握し、入学後の生徒支援を図ります。また、このカードの内容をもとにして、「個別の教育支援計画」を作成します。

<ポイント⑤ 保護者との連携から>

- 保護者は第一の支援者であり、学校は保護者の思いや教育的ニーズを十分に聴き取った上で、子どもの将来をみすえた支援を進めていく必要がある。
- 「子どもが力を十分に発揮することができるように」をキーワードに、保護者との連携を進め、支援情報の引継ぎについては、児童生徒の将来の自立や社会参加に向けた長期的な視点で肯定的に伝えていくものであるということを保護者に伝える。

引継ぎを行うにあたっての留意点

引継ぎ等で取り扱う支援の記録等については、重要な個人情報であることを十分認識する必要があります。

このため、これらの情報の取得や提供にあたっては、個人情報に関する関係法令等（個人情報の保護に関する法律、大阪府個人情報保護条例、市町村の個人情報保護条例等）の規定を遵守した上で行う必要があり、市町村や支援機関は、これらの根拠となる法令等について日頃から十分認識しておくことが求められます。

基本的に、これらの法令等においては、個人情報の取得や提供には、本人や家族の同意が前提となっています。このため、これらの記録の取扱いについては、本人・家族と十分な共通理解を図ることが重要です。

「発達障がいのある方のための支援の引継等に関する手引き」（平成27年3月大阪府）より



【ともまな豆知識②】

<高等学校等への引継ぎについて>

- ・高等学校等の進路先には、自立活動の内容も含めた引継ぎが必要である。
- ・府立高等学校で取り組んでいる「高校生活支援カード」に小・中学校における「合理的配慮」等を本人・保護者が記載することにより、「支援」がつながりやすい。
- ・中学校卒業後の進路先は多様である。それぞれの進路先にどのように引き継いでいくかを考えていく必要がある。

高校生活支援カードについて

高校生活支援カードとは

高校では、これまでとちがった環境での学びがスタートします。入学生は、新しい出会いや初めて経験する授業など、高校生活に期待が膨らむ一方で、不安や戸惑いを感じることもあります。高校生活支援カードは、すべての生徒にとって、安全で安心な学校づくりをすすめるために、保護者の協力のもとに作成し活用します。

このカードを活用することにより、高校が生徒の状況や保護者のニーズを把握し、中学校、保護者、生徒の想いを受け止め、高校卒業後の社会的自立に向けて学校生活を送れるよう適切な指導・支援の充実につなげます。平成25年度は、11校のモデル校で実施し、平成26年度からすべての府立高校で実施しています。

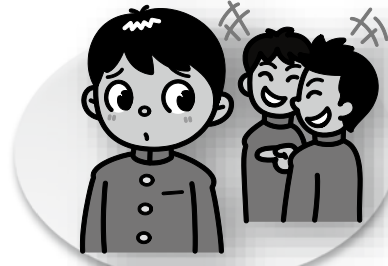
高校生活支援カードの「3つの成果」

- I 状況把握 (生徒・保護者・地域の状況把握)
- II 意識改革 (保護者・教員の意識改革)
- III 支援の充実 (生徒・保護者・教員への支援の充実)

これまでの学びや育ち、想いの引継ぎ

困り感のある生徒と周囲の生徒の状況を把握

いじめを受けたことがある。不登校の経験がある。授業で板書のサポートを受けていた。等



記載項目

高校生活支援カード

- I 将来の目標等について (生徒が記入)
- II 地域との関わりについて (保護者が記入)
- III 安全で安心な学校生活を過ごすために (保護者が記入)

早期の状況把握と気づき

【支援のための連携】
中高連携
集団づくり
就労支援
キャリア教育
等

地域

保護者
中学校
関係機関
NPO法人等

学校

教育相談
生徒指導
進路指導

臨床心理士等

指導・支援
(個人面談、ケース会議等)

個別の教育支援計画
個別の指導計画
個別移行支援計画

生徒

社会的自立



←詳しくは、こちらをご覧ください。

IX まとめ ～ 支援教育充実推進会議より ～

昨年度に引き続き、今年度は中学校において、「ともに学び・育つ」学校づくり支援事業に取り組みました。

本事業における「支援教育充実推進会議」では、自立活動の指導と中学校における特徴的な課題等を整理し、障がいのある子どもたちの指導・支援のために大切なことをまとめました。

自立活動の指導に関すること

課題

- ① 「自立」の意味が誤ってとらえられ、子どもに負荷がかかっているケースがある。
- ② 活動内容や指導方法ありきとなり、子どもの実態と合っていないケースがある。
- ③ 実態把握を行うにあたって、「できないこと」ばかりに注目してしまう。
- ④ いつまでたっても達成できない「目標」を設定しているケースがある。
- ⑤ 自立活動の指導について、本人・保護者の理解が得られないケースがある。
- ⑥ 卒業後の子どもの姿（人および社会との関わり方・余暇の使い方等）を想定していないケースがある。

課題解決のために必要な観点

- ① 支援教育における「自立」とは、自分の力を最大限発揮することであり、その子どもなりの「自立」がある。例えば、いろいろな制度を活用して自己実現を図ることも「自立」である。
- ② 自立活動の指導は子どもの実態把握からはじまる。
 - ・ 自立活動の指導は生活年齢に即した段階等によらない部分の指導、日常生活や教科学習の基盤となる指導である。
 - ・ コミュニケーションや対人関係に困りを感じている子どももいれば、学び方で困っている子どももいる。学習面で困っている子どもにも様々な理由があるという観点を持つ必要がある。
- ③ 「困難さを克服する」という観点とともに、「できることや得意なこと」は何かという観点が必要である。子どもの「得意なこと」「好きなこと」を指導に活かしていくことが大切である。
- ④ 子どもの自己肯定感が高まるような評価ができるよう、達成可能な目標を設定することが大切である。
 - ・ 子どもの実態によっては、「～しようとする」意欲や可能性について目標を設定し、評価することを検討する。
 - ・ 子どもと目標を共有し、子ども自身が「できた」と実感すること（自己評価）が大切である。

- ⑤ 本人・保護者の願いをふまえることが自立活動の指導の理解につながる。適切な実態把握に基づいた指導であっても、本人・保護者の願いをふまえていなければ理解にはつながらない。
- ⑥ 人間関係や余暇の使い方等、子どもがどのように社会と関わるかという長期的な視点を持つことが大切である。卒業後の子どもたちが、本人なりに「自立」した生活を送れるよう指導計画を立てる必要がある。

中学校の仕組みや体制に関すること

特徴

- ① 教科担任制であり、一人の子どもに関わる教員の人数が小学校に比べて多い。
- ② 学年として教員の体制を組むことが多く、入学から卒業まで三年間、継続して関われる教員がいる。

課題

- ① 一人の子どもに関わる教員の人数が多く、子どもの情報を共有しにくい。
人数が増えれば増えるほど、情報の管理に工夫がいる。
- ② 他学年の教員が指導に関わる場面は少ないので、支援教育コーディネーターの配置と人数に工夫がいる。

強み

- ① 多様な視点で子どもの状況を把握ことができ、より良い実態把握につながる。
子どもの支援・指導において、役割分担がしやすい。
- ② 学年集団というくくりで、子どもの状況等の引継ぎがしやすい。
三年間の継続した指導の積み重ねがしやすい。
学年集団等のくくりで、組織として対応するためのノウハウがある。



- ◆ 子どもが「自立活動の指導」で取り組んでいることを、当該の子どもに関わる教員が共有できていれば、子どもが学んだことを発信したときに、どの教員も受けとめることができる。学んだことが他の場面で「うまくいった」と子どもが感じたら、それが自信となり、成長につながる。
- ◆ 支援教育コーディネーターを各学年に配置し、それを統括する学校全体のコーディネーターを配置するなど体制を工夫することで、連携や情報の共有がしやすくなる。

令和3年度「ともに学び・育つ」学校づくり支援事業 第1回～第3回 指導助言会のまとめ

「指導助言会」は、代表校において研究する障がい種別等に応じた自立活動を中心に、具体的な指導方法や評価のあり方等について、府が派遣する学識から指導助言を頂きながら取組みを進めてきました。

本まとめは、各代表校で開催された指導助言会における学識からの指導助言内容等のポイントやエッセンスをまとめたものです。

A 中学校の取組み

発達障がい（通級による指導）①の実践事例（P.52 参照）

- ◇研究種別等 通級による指導（発達障がい）
- ◇モデル生徒 通級による指導を受けている生徒・3年生 ※第1回、第2回
通級による指導を受けている生徒・2年生 ※第3回
- ◇取組みの概要 ASD 傾向のある生徒
及び言語による意思表示等に困りのある生徒の自立活動についての研究

【第1回】

学識からの指導助言
<p>○実態把握について</p> <ul style="list-style-type: none">・話したいことを話し続ける。感じていることを表出することや共感することが難しい。刺激的な言葉に興味があり、頻回に述べる。興味のある事柄について説明することを好む。自分で判断することは苦手。処理能力もゆっくりである。
<p>○指導について</p> <ul style="list-style-type: none">・般化とは実感である。本人が「うまかった」と感じることははじめの一步である。よって、目標や指導について、本人に相談をして行うこと。卒業後の未来の話をしながらか提案するのはどうか。
<p>○今後の指導について</p> <ul style="list-style-type: none">・他者をどう思っているか、何に関心があるかを確認すること。感情の表出の前に思いを実感させ、視覚支援をしながら、思いを言語化させる指導が必要。視覚優位なので書かせたほうが良い。自己認知の前に他者を知ることから取り組む。本人の話は否定せずに聞くことが自己認知につながっていく。・自己決定、自己判断ができなければ、SSTで学んだ手法の活用はできない。小さなことから自己決定をする経験を積み重ねることが大切。・感覚過敏があるが、本人は気が付いていないかもしれない。ストレスになっていることも考えられるので、何が気になったのか確認をし、どう対処したらよいか学習できるとよい。



ポイントのまとめ
<ul style="list-style-type: none">◆自己認知の前に他者を知ることから指導を始める。◆感情の表出の前に、本人の思いの実感が必要である。◆本人が「うまかった」という自己評価をできることが、本人にとっての「般化」ではないか。

【第2回】

学識からの指導助言
<p>○実態把握について</p> <ul style="list-style-type: none">・見ていなかった他者を見るようになった。・人物の関係性の把握と、出来事を時系列に把握することに困難さがある。・想像することに困難さがある。そのため、未来に漠然とした不安を抱えている。
<p>○指導について</p> <ul style="list-style-type: none">・自分で考えて決めることが苦手な本人の実態をふまえ、本時のテーマを「考えること」とし、自己決定の場面を意図的に作ったことが良い。また、教材の選定も良く、本人も授業を楽しんでいる。・指導をとおして、感情の表出が困難であることがわかった。言葉は使えているけれども体験と結びつい

ていないと思われる。

- ・本人が最後に、「特に考えたのは、コミュニケーションゲームです」と述べたのは、本人なりの評価。それはなぜなのか問いかけるとよい。何を学んだのかの確認となる。「考える」ということが本人にとってどんなことなのか、ということに指導によってせまるとよい。

○今後の指導について

- ・1つの活動内容をもっと深めていく必要がある。本人の答えた中身について聞くために、活動の数を絞り、待つことが必要。その上で、本人が伝えたいことを伝えられるように支援する。
- ・「話ができた・できない」の評価から、「話した中身」について評価するように変えていく。
- ・答えられずパスした質問については、次に同じ質問が出たときにどうするかを本人と考える場面が必要。また、「大人になってみたい」などの答えについて「なぜ」と深めていくことも大切。やりとりをとおして、感情を表す言葉を増やしていきたい。



ポイントのまとめ

- ◆自立活動の指導をとおして、実態把握を深めていく。
- ◆感情の表出のためには、「なぜ」と問いかけることで、感情を表す言葉を増やしていくことが必要。

【第3回】

学識からの指導助言

○実態把握等について

- ・言語による意思表出に困りがある。静かな環境、視覚支援は合理的配慮として必要である。
- ・授業中の状況把握が難しく、教員の指示や学習活動の内容を理解できていない様子。指示等を理解しているか確認をする必要がある。
- ・姿勢の保持が困難なため、椅子に足をのせ安定させている。考えているときに視線をそらしたり、椅子を揺らしたりする動きがある。
- ・理解しているときは、身体の動きが止まり、対象を見ている。

○指導について

- ・合理的配慮として視覚支援をしつつ、それらを活用するための自立活動の指導が必要である。
- ・「さいころトーク」の指導に関すること
さいころの文字はてがかりにせず、絵のみで考えている様子。複数の情報を活用させるために、「見比べる」「関係を考える」などの指導が必要である。
さいころを転がすことについて、初めはやり方がわからず、教員が転がすのを見て、上から投げている。不器用さや姿勢保持の難しさもあるので、身体を動かす時間も取り入れる。例えば、さいころを転がす練習をするのもよい。リアルな「体験」が大切であるので、「本人に書かせる」、「身体を動かす」などの活動も大切である。
- ・誤解される行動もあるので、自信を失わないように配慮しながら、マナーを指導すること。

○自立活動の指導について

- ・「指導のふりかえり」が大切。指導をふりかえり、次の指導にいかす。



ポイントのまとめ

- ◆合理的配慮として視覚支援を行いつつ、自立活動の指導でそれを活用するための指導を行う。
- ◆「指導のふりかえり」が大切。指導をふりかえることで、次の指導にいかすことができる。

B 中学校の取組み

知的障がい①の実践事例 (P.28 参照)

- ◇研究種別等 支援学級（知的障がい）
- ◇モデル生徒 知的障がい学級在籍・2年生
- ◇取組みの概要 ADHDを伴う知的障がいのある生徒の自立活動についての研究

【第1回】

学識からの指導助言

○実態把握について

- ・目標と自立活動の区分の整理は適切である。目標に対する自立活動の区分は複数あてはまる。
- ・語彙量が多いが、状況を把握することやワーキングメモリに困難さがある。縦方向の眼球運動が得意。
- ・プリントの内容をわかりやすく伝える、ホワイトボードに書くイメージを持たせる、学習内容の分量をしぼる、座席を配慮する等の支援・指導が必要。
- ・「何回言ったらわかるのか」「早くしなさい」は、NGワードである。教員間で共通認識を持つこと。

○授業について

- ・他者感情の理解が困難であり、まだ他の生徒の気持ちをくみとる課題は難しい。発表時に緊張がはしる。状況把握が苦手なため、自身の不適切な言動に気が付いていない。ライフスキルの指導が必要。

○今後の指導支援について

- ・性に関する指導が必要。ただし、性に特化せず、広く指導すること。例えば、自己理解、体の清潔の保持、体の部位の名称、妊娠や出産、被害の予防や報告の仕方等、ライフスキルとして学ぶことが大切。個の課題は異なるが、学ぶときは構成メンバーに配慮し、複数で実施したほうが良い。（男女を分ける、LGBTに配慮等。）



ポイントのまとめ

- ◆場面理解や状況判断に困難さがある等、本人の気づきが必要である。適切でない行動には、代替となる行動を指導する。
- ◆性に関する指導は生徒に強い印象を与え、逆効果となる可能性もあるので、それに特化した指導ではなく、ライフスキルとして幅広く指導をする。

【第2回】

学識からの指導助言

○実態把握、目標設定について

- ・他者理解が苦手であり、自分の身の回りのことがおろそかになると、友だちとの円滑な人間関係を阻害してしまうことになる。
- ・モデル生徒の年齢を考慮すると、性に関する指導や身だしなみに関する指導を優先的に行う必要がある。
- ・一般的な性に関する知識を身に付ける指導だけでなく、ライフスキルとして身に付けるには、生徒の特性に応じた取組みや、個別のアプローチが必要となる。自立活動での取組みにつなげていくべき内容である。

・困難に直面すると固まる傾向にある。これは、本人にとっての回避・逃避行動であり、本人にとって直面している課題が高すぎるということでもある。課題の見直しを行う必要がある。

○指導について

・ソーシャルスキルトレーニングにおいて、ワークシートに掲載するイラストはできる限りシンプルなもの为好ましい。（不必要な刺激を除くため）セリフ等も必要最低限の内容が良い。



ポイントのまとめ

- ◆個別の目標を設定する際は、本人の年齢や性別、生活環境等の要素も考慮することが必要。
- ◆特に短期目標の内容は、より具体的に記載し、評価可能なもの、そして生徒が達成可能なものにする。

【第3回】

学識からの指導助言

○授業について

- ・場面設定を動画で見せたのは良い。生徒の「動機付け」になっていた。何を見てほしいのかを確認してから見せると、生徒はより焦点化して動画を見ることができる。
- ・自分を中心にして考えているため、体験していない場面を設定すると、その時の「気持ち」や「対処法」がわからない様子であった。他者の言動として考えさせてもよかった。
- ・対象生徒は集中できる時間が短いので、授業の前半にポイントを持ってくると良い。
- ・最初の事例ではモデルを提示し、以降の事例を自分で考えさせたところも適切な指導である。
- ・ロールプレイは「恥ずかしい」気持ちが強い様子。事前予告と動機づけを行うことが大切である。
- ・指導者が生徒に対し、傾聴、受容、共感ができていて、生徒の意欲が高まっているところが良かった。

○振り返りと今後の取組みについて

- ・対象生徒には、今後、人物の表情を考えさせる指導も必要である。
- ・実態把握が大切。指導の中で生徒の反応を確認し、指導を変えていくことを繰り返すことが大切。
- ・自立活動の内容を他の教員と共有することも必要。生徒が発信したらどの教員も受け止めてほしい。



ポイントのまとめ

- ◆指導の中で生徒の反応を確認し指導を変えていく。この繰り返しが大切である。
- ◆自立活動の内容を他の教員と共有することが必要。生徒が学んだことを発信したら、どの教員も受け止められるようにしておくこと。

- ◇研究種別等 通級による指導（発達障がい）
- ◇モデル生徒 通級による指導を受けている生徒・2年生
- ◇取組みの概要 場面緘黙の課題がある生徒の自立活動についての研究

【第1回】

学識からの指導助言

○実態把握について

- ・不登校傾向にある生徒は、ASDの可能性があるケース、愛着障がい、精神医学的な諸問題に大きく分類される場合がある。
- ・モデル生徒は、LD 傾向（特に、聞くことに対する課題が大きい）にあり、このことが原因で自尊感情が低下している可能性がある。また、不登校傾向や教室に入りづらい状況につながっていることも考えられる。

○今後の指導・支援について

- ・今回の授業で行われた様々な指導・支援は、視覚情報を活用するものばかりであった。
- ・モデル生徒の実態把握から、聴覚情報の認知に課題があると推測されるため、様々な感覚に訴える指導・支援を検討してはどうか。例えば、聴覚を活用する教材（指導者が発言した内容をプリントに書き写す課題 等）を取り入れること等も効果的。
- ・今は、個別の対応も必要であるが、今後は、スモールステップを踏みながら複数名（まずは2名）で学習できる体制を構築していく必要がある。

○次回までの取組み

- ・聴覚を活用する指導・教材内容を検討。



ポイントのまとめ

- ◆実態把握は、行動観察だけでなく、検査結果や小学校時のエピソード等、多面的・多角的に分析することが必要。
- ◆自尊感情を高めるために、本人に「できた」「わかった」と実感を味わわせる指導・教材内容を検討する。

【第2回】

学識からの指導助言

○実態把握について

- ・知的な課題は大きくないが、社会不安障がいの傾向がある。
- ・聴覚情報のワーキングメモリーは良好だが、長期記憶や聞いて書く力について今後アプローチしていく必要がある。

○今後の指導・支援について

- ・緊張度が高いので、声を出す課題に取り組む前に、息を吐く練習を行う、緊張度を数値化する等、自分自身で課題に対する振り返りができるような取組みも必要。
- ・まずは、安心して過ごせる環境整備を行った上で、第二段階として、他者と話す練習を取り入れる。

・いきなりクラスの友だちの前で話をさせるのではなく、スモールステップで取り組む。その際、誰と、どこで、何を、といった文章を構成するポイント、その課題の目標は何かということを明確にしておくことが重要。パターンを変えながらも、確実に到達できるステップを設定する必要がある。

○第3回に向けて

- ・短期目標をより具体的な内容に設定する。
- ・これまでの助言をふまえ、自立活動のねらい、指導内容を練り上げる。



ポイントのまとめ

- ◆目標はより具体的に設定し、何をめざして課題に取り組んでいるのかということを、本人に意識させる。
- ◆目標までの工程を細分化し（スモールステップ）、確実に達成できる短期目標を設定する。

【第3回】

学識からの指導助言

○今後の指導・支援について

- ・モデル生徒は、場面緘黙以外にも、APD（聴覚情報処理障がい）の傾向があるかもしれない。
- ・特徴としては、聞き違いが多い、雑音下での聞き取りが困難、口頭での指示に従うことの困難等があげられる。
- ・APDのある生徒に対しては、視覚的な手掛かりを与える、指示を単純化する、周囲の雑音を減らす等、自閉症のある児童生徒に対する支援内容を活用するとよい。

○評価の仕方について

- ・評価を数値化することは難しい面もあるが、メタ認知能力を高める一つの手段にもなる。（生徒自身が、学習内容の達成状況について、視覚的に客観視できる）

○通級指導教室について

- ・指導時間や担当者の人数が限られている中、通級による指導においてめざすべき方向は、児童生徒の「明日につながるアプローチ」をしていくこと。ポイントは2点。
- ・1点めは、通級による指導では、学習の補充ではなく、学習に取り組むための方略や手段を身に付けるための指導を行うこと。
- ・2点めは、児童生徒の自己理解を深めさせること。例えば、自分にはこのような特性（弱さ）があり、その点を補うために、他者にヘルプを求めることで改善することができる等、自分の特性を理解し、必要に応じて、支援を求める力を付けさせる指導が必要。
- ・通級による指導において、何をめざしていくか（目標）ということを、本人や保護者と共有を図ることが重要。



ポイントのまとめ

- ◆通級指導教室は、学習に向かうためのスキルを学ぶ場所である。そのスキルを身に付けていくためには、自己理解を促していくことが重要。
- ◆学習評価において、本人自身にも学習の達成度合いを視覚的に示すという観点で、評価を数値化することも効果的である。

- ◇研究種別等 支援学級（自閉症・情緒障がい）
- ◇モデル生徒 自閉症・情緒障がい学級在籍・1年生
- ◇取組みの概要 自閉スペクトラム症のある生徒の自立活動についての研究

【第1回】

学識からの指導助言

○自立活動とは

・生活年齢に即した指導だけで対応できない課題に対して、自己の力を最大限に発揮して克服していかうとする力を育むものが自立活動。教科の学習を進める上で、自分の強みを生かしたてで見つけて、その技能を養うことも自立活動である。ゆえに、教科の学習への関心が強い保護者の思いと自立活動の内容は全く無関係ではない。

○短期・長期の目標について

・目標は評価と関連しており、目標を立てる際は、評価可能なものにする必要がある。
 ・目標が抽象的すぎると評価しづらい。評価しやすくするために、目標は具体的な方がよい。
 ・短期と長期の目標は密接に関連しているので、短期の目標が思いのほか早く達成できた場合などは、長期の目標を前倒して設定できるようなものがよい。

○今後の指導・支援について

・自立活動を教科の学習の基礎につなげていくためにも、例えば「視覚的な手掛かりがあれば、安心して行動できる」や「相談スキルを身に付ける」ことを目標として、指導・支援してみてはどうか。



ポイントのまとめ

- ◆自分の強みを生かしながら、教科学習の基礎になる部分について力を付けていくことも、自立活動の内容の一つ。自立活動は教科の学習と無関係ではない。
- ◆短期・長期の目標設定は、評価可能なもの、そして生徒が達成可能なものにする。

【第2回】

学識からの指導助言

○目標設定について

・「わからないことや困ったことがあれば先生に伝え解決しようとする」という目標を立てているからには、何か困ったことが起こる場面、何か質問しなければ解決できない場面が必要になる。例えば、活動で使用する物が準備されていない状況をあえて設定しておく等、自立活動の中に場面設定しておくことが一つの方法として考えられる。
 ・解決するための方法（ヘルプを出す方法）を具体的に教えておく必要がある。例えば、「リクエストカード」を出す等、誰にどのタイミングでどのようにヘルプを出すのかの指導が必要。
 ・相手を称えること、互いにほめあうことができれば、あらゆる場面で人間関係が円滑になるが、自閉スペクトラム症の特性として、これがなかなか難しい場合がある。自立活動の中で、教師が生徒をタイミングよくほめる等、ほめる表現、タイミングについて模範を示すことが効果的である。
 ・負けたときにパニックになる、感情をオーバーに出してしまう等についても、その時の気持ちを適切に表

現できないことが原因なので、負けたとき（あるいは勝ったときも）何と言葉で表現すれば良いかを教えることが重要。



ポイントのまとめ

- ◆設定した目標を達成させるためには、自立活動において目標達成に向けて具体的に指導できる場面を設定しておく必要がある。（ヘルプを出すことが目標であるなら、生徒がヘルプを出さないといけない場面をあえて設定する）
- ◆人間関係を円滑にするためには、「相手を称えること、ほめること」が効果的。自立活動で設定された場面で、指導者が模範を示すなど、表現方法を具体的に教えることが重要。

【第3回】

学識からの指導助言

○指導案について

- ・本時の目標については、具体的な活動場面も記載したほうがわかりやすい。
- ・指導上の留意点・配慮事項の欄は、「～できるようにする」という自発的な表現のほうがよい。逆に、合理的配慮は教員等が行う配慮なので、教員が主体となる表現でよい。
- ・対象生徒には、コミュニケーションの課題があるので、言語活動を増やすとよい。様々なモデルを学ぶことが、場面に応じたコミュニケーションにつながる。

○今後の指導について

- ・「ヘルプを出す」ためには、自分が困っているということをつらなければならぬ。他者に適切に依存することは「生きる力」につながる。失敗経験をさせてしまうことはよくないが、配慮しすぎてもよくない。あえて困る場面を設定したり、モデルを見せたりして、生徒に考えさせる指導も大切。

○中学校卒業までに付けたい力

- ・「自己理解」・・・自身の得意なこと、苦手なことを知る。
 - ・「相談スキル」・・・相談する、尋ねるというスキルをみに付ける。
- 自分自身のことを理解している生徒は、「自己肯定感」が高い傾向がある。



ポイントのまとめ

- ◆コミュニケーションの様々なモデルを学ぶことで、場面に応じたコミュニケーションができることをめざす。
- ◆「ヘルプを出す」など、他者に適切に依存する力を付けることが、「生きる力」につながる。
- ◆「自己理解」と「相談スキル」は、卒業までに付けたい力である。

- ◇研究種別等 支援学級（知的障がい）
- ◇モデル生徒 知的障がい学級在籍・1年生
- ◇取組みの概要 知的障がいのある生徒2名の自立活動についての研究

【第1回】

学識からの指導助言

○実態把握について

- ・「できない」「無理」等の発言に対して、本当にできないのか逃避で言っているのか見極めが必要。
- ・衝動性が強いのであれば、身体のコントロールを課題とするのもよい。
- ・卒業後の生徒の姿をみすえ、自立のために今どんな力を付けさせるのかを考えることが大切。特に中学校では本人が自分の力でできることを増やしていくことが重要。だからこそ自立活動が大切。

○授業について

- ・作業の流れがイメージしやすいよう動画を用いた説明はよかった。しかし、動画は自分のペースで確認することには向かない。
- ・生徒が確認するための作り方が書かれた用紙（手順書）があると、自分の行動を確認する力を付けることにもつながるし、行動をコントロールする力を付けることにもつながる。
- ・生徒同士の意図的なコミュニケーションがなかったので、協力・協働するしかけが必要。
- ・課題を克服するための活動内容、付けたい力に合わせた授業を展開する。

○今後の指導支援について

- ・心理的な安定が一番の課題ではないと思う。「身体の動き」をふまえた実態把握の見直しが必要。



ポイントのまとめ

- ◆本人が活動の見通しをもち、自分自身でコントロールできる力を身に付けるように指導する。
- ◆身に付けたい力を、本人がどれだけ意識して活動できるか。目標を共有し、この時間の自分の目標は何かを意識できるように指導する。

【第2回】

学識からの指導助言

○授業について

- ・本時のスケジュールが書かれた用紙が机上にあることで、前回見られた「次に何をするのか」という発言や不用意な立ち歩きがなくなった。
- ・導入のビジョントレーニングに、生徒が興味を持っているキャラクターを用いたことで、主体的に授業に参加する姿が見られた。
- ・ビブリオバトルの資料を作成する際に、資料のフレームがあるのはとても良かった。また、テーマを本に限定せず、アニメや映画も対象にしたのは良い。

○自立活動について

- ・本人が理解できる目標を設定し、指導者と生徒が目標を共有することで、主体的な活動につなが

る。(例：Aさんは、授業中に姿勢を保持することが目標なので、バランス感覚と筋力を高めるために、授業の始めにヨガやバランスボールをします)

○今後の指導支援について

- ・Web 会議システムの録画機能を活用するとよい。録画することで、自分自身の活動を客観視できるので、フィードバックにつなげやすい。また、リハーサル時の様子、本番時の様子の比較も容易。Web 会議サービスや授業支援アプリの使用は、伝えたい気持ちの高まり、表現力の向上につながるので、継続して取り組むとよい。



ポイントのまとめ

- ◆指導者と生徒で目標を共有し、活動内容とめざす姿を結び付けて指導する。
- ◆Web 会議システムをはじめICTを活用することで授業の幅が広がる。活動の様子を録画し、視覚支援を活用して、フィードバックすることで、今後の指導に活かせる。

【第3回】

学識からの指導助言

○授業について

- ・個々の課題を克服するための活動が伝言ゲームやツイスターゲームという形で授業の中に自然に取り入れられているのは良い。
- ・生徒の興味関心に応じて、教材の工夫がされている。
- ・ICT を活用することで、離れた場所（今回は対象生徒が在籍していた小学校）との同時双方向のやりとりが可能となり、教材の共有も容易に行われていた。

○自立活動について

- ・生徒の実態に合わせて、個々に目標を設定されているのは良い。また、それが教材プリントに記載されていることで、生徒自身が活動時に意識することにもつながっている。
- ・実態把握を丁寧に行い、実態に基づいた目標が設定され、目標達成のための指導内容となるように自立活動の時間が計画されている。

○今後の指導支援について

- ・ICT を活用した教材や自立活動の実践を自校や他校の教員と共有するとよい。
- ・生徒の実態に合わせた個々の目標設定と生徒との目標共有は、継続して取り組んでほしい。



ポイントのまとめ

- ◆生徒の実態に合わせた本時の目標が個々に設定がされており、生徒とも共有されている。
- ◆個々の課題を克服するための活動が、自然に授業に取り入れられている。

令和3年度「ともに学び・育つ」学校づくり支援事業にご協力いただいた方々

(50音順)

◇学識一覧

伊丹 昌一（梅花女子大学教授）
小田 浩伸（大阪大谷大学教授）
閑喜 美史（梅花女子大学教授）
長澤 洋信（四天王寺大学講師）
丹羽 登（関西学院大学教授）
松久 眞実（桃山学院教育大学教授）

◇学校関係者

坂谷 敦子（大阪府立中央聴覚支援学校教諭）
村江 鉄平（大阪府立大阪南視覚支援学校指導教諭）

◇代表校（所管市町村教育委員会）一覧

池田市立池田中学校（池田市教育委員会）
泉大津市立小津中学校（泉大津市教育委員会）
門真市立第五中学校（門真市教育委員会）
河内長野市立千代田中学校（河内長野市教育委員会）
島本町立第二中学校（島本町教育委員会）

◇市町村教育委員会一覧（指導事例提供）

和泉市教育委員会
茨木市教育委員会
大阪狭山市教育委員会
貝塚市教育委員会
泉南市教育委員会
太子町教育委員会
大東市教育委員会
高石市教育委員会
高槻市教育委員会
富田林市教育委員会
東大阪市教育委員会
八尾市教育委員会

◇執筆者

大阪府教育庁教育振興室支援教育課
大阪府教育センター支援教育推進室



大阪府教育庁 教育振興室 支援教育課
〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目
TEL 06-6941-0351
FAX 06-6944-6888

令和4年3月発行